

Title	西ドイツ刑法学の現状 (追録III)
Sub Title	Der gegenwärtige Stand der deutschen Strafrechtswissenschaft (Dritte Ergänzung)
Author	宮沢, 浩一 (Miyazawa, Koichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1975
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.48, No.6 (1975. 6) ,p.53- 107
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19750615-0053

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

西ドイツ刑法学の現状（追録Ⅲ）

宮 沢 浩 一

は し が き

一、本誌第四五巻九号、八七頁以下、一〇号七一頁以下に、「西ドイツ刑法学の現状（追録Ⅱ）」を發表してから、二年経過した。その間、西ドイツに旅行をして、若干の調査を行ない、「西ドイツ刑事法学の研究体制 付オーストリアおよびドイツ語圏スイスの状況」という簡単な資料を公開した（本誌第四七巻三号、七〇頁以下）。前稿を發表した後、気のついた著書、論文（従来の調査で、記載もれのあったものを含む）を書きためたカードは、半ペラで約二八〇枚ほどの分量になつたので、ここに追録Ⅲをまとめることにした。

最近の西ドイツは、わが国と同様に、学生数の急激な増大のありをうけて、総合大学の数を増やし、既存の大学の講座数を増設し

たためもあつて、一と昔前では考えられなかつたほど、若い研究者が簡単に教授になるようになった。殊に、犯罪学の分野は、需要が大きいため、講座数が増えたので、少い業績でも教授として赴任する例が見られる。若い世代の人々にとつては、好ましい傾向かも知れないが、じつくりと時間をかけて養成されないので、地位だけ高くなるというのは、将来の大成という点から考えると、はたして本當によいことであるかどうか分らない。

本稿は、その殆んどが一九七五年四月末までに披見しえた資料を採録した。主として、慶應義塾大学法学部資料室と私の個人蔵書の中から見つけたものをカード化したから、公開された文献のすべてを網羅しえたかどうか自信はない。恐らく、かなりもれているものがあるであらう。逐次、補完したいと考えているから、お気づきの

点を指摘して頂ければ幸いである。

二、西ドイツ刑法学の現況をできるだけ正確に把握しようとして始めた此の仕事は、最初の分の公刊以来、すでに一〇年を経過した。常に、新しい文献に気を配るといふ準備作業は、たしかに面倒なことではあるが、これまで私が怠け心を起こさずに済んでいるのも、絶えずこれらの新しい刑法学の動きに注意を払い、それらを手にし、読むことで刺戟を受けているからにはかならない。その意味では、この仕事を最も役立てているのは、私自身かも知れないと思つてゐる。

このビブリオグラフィのお蔭で、西ドイツの学者達とずい分知り合いになれた。彼らと話をしつゝ、論文を書くときに、最も頻繁に利用されているのは、実は、この資料であるといふ評判をよく耳にする。そのためもあつてか、協力を依頼すると、多くの人々が快よく応じてくれるので、当初と比べると、情報の蒐集が大へん楽になつた。

今回の追録に、かなり多くの若い研究者の名前が登場している。これらの諸君が、今後、どのように成長してゆくかを考えると、大へん楽しみである。

しかし、一方では、一九四〇年代生れの人々の論著をメモすること、いささかの空しさを感じる年頃になつてきたので、この仕事と併せて、少し過去に遡る仕事にも手をつけている。

さし当り、一八四九年に創刊され、一九四二年に廃刊された雑誌『法廷 (Der Gerichtssaal)』の著者名別論文目録の作成にとりか

かり、やつと整理を終つたので、間もなく、成文堂から公刊する予定である。御参照賜らば、幸いである。

此の迂遠な仕事を断やさずに続けているのは、日本の刑法学の研究に、基礎資料を提供することによつて、安易な研究に墮すことを防ぎ、併せて、視野の広い研究成果が生み出されるについで、縁の下力持ちにならうといふ信念に基づく。思いつきからは、永遠を相手にする仕事は生れない。小才のきいた仕事は、一時の用に供することは出来ようが、時の流れとともに消えてゆく。学問の潮流との相関関係を見究わめないで、若干のものをとり出し、換骨奪胎して、あたかもオリジナルな思考であるごとく装ふことは、空しい努力であることを知るべきである。情報化社会においては、底の割れる仕事は、所詮、空しい。この点に、コンセンサスが生れたとき、はじめて雄大な仕事を多くの人が造り出すようになるだろう。此の資料は、西ドイツの大学関係者の仕事を集大成したものであるが、実は、実務家の論稿も又、巨大量にのぼる。

「第二次大戦後の西ドイツ刑事法論文集成」(仮題)の公刊をも、近く予定している。そして、それとともに、「書評に現われた、戦後の西ドイツ刑事法学」(仮題)の完成でもつて、西ドイツの刑事法学の大体の見通しがつく筈である。

この資料集は、要するに、西ドイツ刑事法学研究のための、ごくささやかな一里塚にすぎない。この事実を凝視して、慄然としているのは、他ならぬ筆者自身なのである。

三、西ドイツの刑法学者の移動は、相変らずひんばんに行なわれ

ている。一つの理由としては、最近、続々と大学が新設され、法学部が増設されて居り、講座の数が増大しているからであるが、他に、ここ数年、戦前からの教授が定年になり、空席ができたことにもよる。ちなみに、来年、定年となるポッケルマンを最後として、戦前に教授となつた人は、すべて、第一線を退ぞくことになる。

そうになると、いわゆる「代案教授」たちが最古参のグループを形成することになる。

私の知る限りでは、前稿（法研四七巻三号七〇頁以下）に発表した調査以後、法学部を増設し、新設大学の法学部をも加えて、教員を集めている例には、ハノーバー、コンスタント、トリエー、ウルムなどの諸大学があり、その他、デュッセルドルフ、オスナブリュックなどの名もあがつている。ひと頃の日本の「教授ブーム」が、遅まきながら、西独を席卷している感がある。

重複を避けるために、前稿（法研四七巻三号）の後に、分つた限りでの刑法学者達の移動を左に記しておく。

アウグスブルク大学

ここは、別段の異動はないようである。

ベルリン自由大学

フォークラ教授が、ギーセン大学に転出した。なお、ミュンスター大学のシュナイダー教授がここへ移るといふ話が出たところ、学生が騒いで、脅迫状を出すという混乱があつたという。「自由」の名が泣くというものである。

ビーレフェルト大学

エーザーが、テュービンゲン大学の故シュレーダーの後任として転出した。私講師として、カリースが就任した。

ポッフム大学

ヘルツベルクが教授として赴任したという未確認情報がある。

ボン大学

一九七四年七月六日に、V・ヘンティッヒ教授が死去し、ホルンがゲッティンゲン大学に移つた。

ブレーメン大学

ギーセン大学から、クヴェンゼルが教授として赴任した。

エルランゲン大学

ミュンヘン大学の私講師ゲッセルが、教授に就任し、ゲッティンゲン大学のアルツトが転任してきた。

フランクフルト大学

異動はない模様である。

フライブルク大学

ゲッペルトが私講師に就任する日が近い。

ギーセン大学

ベルリン自由大学から、フォークラ教授が転任し、クヴェンゼルがブレイメン大学に転出した。

ゲッティンゲン大学

ホルンがボン大学から移つてきたほか、テュービンゲン大学の私講師シュエヒが教授として赴任した。

ハンブルク大学

私講師のワグナーが、キール大学に招聘され、転出し、ランガーがマールブルク大学教授として転出した。

ハイデルベルク大学

マンガキスがアテネ大学に復帰し、そのあとをミュンヘン大学私講師のハフケが代講している。

キール大学

ワグナーがハンブルク大学から移つて、教授に就任した。

ケルン大学

引退したランゲの後任として、レーゲンスブルク大学から、ヒルシュが転任してきた。又、私講師のラインハルト・V・ヒッペルがマールブルク大学に転出した。

マインツ大学

私講師のロリンスキーが、レーゲンスブルク大学に招聘され、転出した。一九七五年三月二日に、ラング・ヒンリクセンが七二歳で死去した。

マンハイム大学

一九七四年冬学期にツィップがオーストリアのザルツブルク大学に転任した。

マールブルク大学

ケルンから、V・ヒッペルが、ハンブルクからランガーが教授として転任してきた。

ミュンヘン大学

ベルンハルト・ハフケとベルトント・シュエネマンが私講師となつ

た。いずれも、ロクシンの弟子である。私講師のゲッセルは、エルランゲン大学教授として転出した。

ミュンスター大学

ウィルフリート・キューバーが教授となつた。

レーゲンスブルク大学

ヒルシュがケルン大学に転出し、ロリンスキーが教授として就任した。

ザール大学

キューネ助教教授が、新設のコンスタンツ大学法学部に移動するといふ。

テュービンゲン大学

ビレフェルト大学のエーザーが教授に就任し、私講師のシュヒがゲッティンゲン大学に転出した。

ヴュルツブルク大学

一九七四年一月二二日に、ストックが七九歳で死去した。

× × ×

以下、刑事法のスタッフをアルファベット順に紹介するが、旧稿との関係を明示するために、「」内に所要事項の所在頁を示めす。

旧稿のうち、刑法雑誌一七卷一・二号、三・四号と本稿の前稿追録II12 (法学研究四五卷九号、一〇号)のみをかかげる。略号を、刑一七・x・〇〇頁、追II1、2〇〇頁として引用する。

なお、雑誌の略号については、旧稿を参照していただきたい。

アルトト (Günther Arzi)

此の程、ヘーランゲン大学正教授への招聘を受け、移動したという。若手の教授連の中で、比較的良好な仕事をしている。地味ではあるが、中心的な存在になつてゆくのではあるまいか。〔刑一七・一・二、二二五、三・四、一三三、追一一九七〕

このほか、去年末に公刊された AEGLD (Entwurf eines Gesetzes gegen Ladendiebstahl), 1974 (紹介・宮沢・榎修、三三〇号、三頁以下)が、アルトトのマイクタイプによるものである。

著書

Die Strafrechtsklausur, 1973.

論文

„Gekreuzte“ Mordmerkmale? Zur Tragweite des § 50 II StGB. JZ 1973, S. 681 ff.

Zum Zweck und Mittel der Nötigung. Festschr. für H. Welzel, 1974, S. 823 ff.

Zum Verhältnis vom Strengbeweis und freier Beweiswürdigung. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. Karl Peters, 1974, S. 223 ff.

Forum : Zur Bekämpfung der Vermögensdelikte mit zivilrechtlichen Mitteln. — Der Ladendiebstahl als Beispiel. Jus 1974, S. 693 ff.

バウマン (Jurgen Baumann)

相変わらず、多くの仕事をこなしている。一九六五年に、いわゆる代案グループを結成した頃は、若手のリーダーであつたけれども、最近ではむしろ、刑法学界に主要な地位を占める一人となつた。人の世話を良くみる人であり、軽妙なウットをまじえた話好きな性格が、多くの気むずかしい教授連のまとめ役としてうつつつと思われる。〔刑一七・一・二、二二五・三・四、一三三、追一一九八〕

著書 (編著)

Strafrecht. Allgemeiner Teil, 7. Aufl. 1975.

Die Reform des Strafvollzuges. Programm nach den Vorstellungen des Alternativ-Entwurfes zu einem Strafvollzuges, 1974.

論文

Die Todesstrafe im System strafrechtlicher Reaktionen. Pena de Morte, 1967, S. 103 ff.

Soziale Verantwortung ohne soziale Freiheit? JZ 1969, S. 181 f.

Du sollst, wenn du kannst. JZ 1969, S. 505.

Zur Reform des juristischen Studiums. Kritische Justiz. 2. Jg., 1969.

Erziehung zum Establishment? NJW 1969, S. 2041 f.
Besteht heute die Möglichkeit, die Freiheitsstrafe bis zu 6 Monaten zu beseitigen. öRZ 47. Jg., 1969, S. 112 ff.

1973, S. 547 ff.

Die Umbestimmung des Talentschlossenen zu einer s.h. wereren oder leichteren Begehungsweise. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 273 ff.

フント (Günter Blau)

〔罪ニシテ〕

論文

Schweigepflicht und Schweigerecht der Fachpsychologen. Folgerungen aus der Entscheidung des BVerfG v. 19. 7. 1972 (NJW 72, 2214). NJW 1973, S. 2234 ff.

Die Mitwirkung des Richters beim Vollzug. Krim. Geg. Fr. H. 11, 1974, S. 94 ff.

フント (Hermann Bie)l

〔罪ニシテ〕

論文 (未刊)

Mezger—Blei, Strafrecht. I. Allgemeiner Teil, 1973.

Mezger—Blei, Strafrecht. II. Besonderer Teil, 1974.

Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug. Juristische Blätter. Sonderheft 11. Wahlfachgruppen, 1972, S. 43 ff.

Strafgesetzbuch mit Reformgesetzen in synoptischer Gegenüberstellung, 1973.

西ドイツ刑法学の現状

論文

Die Regelbeispieltechnik der schweren Fälle und § 243, 244 n. F. StGB. Festschr. f. E. Heiniz, 1972, S. 419 ff.

Strafschutzbedürfnis und Strafrecht. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 109 ff.

ボックマン (Paul Bockelmann)

この間にか、ボックマンは、現役西ドイツ刑法学者の最古参になつた。来年、定年を迎える筈である。一九七三年に、六五歳のとき、最初の刑法体系書を公刊した。しかも、老大家の手になる著書として、簡潔で、物なれた筆致で書かれたものである。〔刑一〕

論文

Bemerkungen zur Reform des Strafvollzugs, zugleich ein Bericht über den Besuch einiger westeuropäischer Vollzugsanstalten, 1972.

Strafrecht. Allgemeiner Teil, 1973.

論文

Für und wider die Todesstrafe. Pena de Morte, 1967, S.

53 ff.

Zur Problematik der Beteiligung an vermeintlich vorstraflichen rechtswidrigen Taten. Festschr. f. W. Gallas,

五九 (五九三)

1973, S. 261 ff.

Wesentliche Unterschiede des Verkehrsstrafrechts in Europa und Vorschläge zu seiner Vereinheitlichung. DAR 43. Jg. 1974, S. 1 ff.

Zur Problematik der Sonderbehandlung von Überzeugungsverbrechern. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 543 ff.

ブレンネン (Anne-Eva Brauneck)

著書

〔刑一七 一・二 二〇八 追一 一〇一〕

Allgemeine Kriminologie, 1974.

論文

Kriminologie. Recht, hrsgg. v. Badura ua., 1971, S. 92 ff.

Kriminalität als Rätsel. ZRP 4. Jg. 1971, S. 53 ff.

Der Vollzug der freiheitsentziehenden Massregeln der Besserung und Sicherung. Baumann hrsgg., Die Reform des Strafvollzuges, 1974, S. 129 ff.

ブロンクス (Hans Jürgen Bruns)

〔刑一七 一・二 二〇九 追一 一〇一〕

論文

Strafzumessungsrecht. Recht, hrsgg. v. Badura ua. 1971, S. 251 ff.

Ungeklärte materiell-rechtliche Fragen des Contergang-Prozesses. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 317 ff.

Alte Grundfragen und neue Entwicklungstendenzen im modernen Strafzumessungsrecht. Festschr. f. Welzel, 1974, S. 739 ff.

Zur Frage der Doppelrelevanz der Tatfolgen im Strafzumessungsrecht. NJW 1974, S. 1745 ff.

Zum „Toleranzbereich“ bei der revisionsgerichtlichen Kontrolle des Strafmaßes. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 287 ff.

カリース (Ralf-Peter Callies)

一九三五年に生れたカリースは、最初、神学の学位を取得した。

Kirche und Demokratie, 1966.

その後、法学に転じ、ボンンホルト大学のマイヤーの助手となった。一九七〇年に公刊された行刑の論文が、学位請求論文であり、一九七三年公刊の著書が、教授資格請求論文である。カリースは、現在、同大学私講師として、教授に招聘される日を待っている。

著書

Eigentum als Institution, 1962.

Strafvollzug—Institution im Wandel. Eine empirische Untersuchung zur Lage des Männer-Erwachsenen-Strafvoll.

zuges, 1970.

Theorie der Strafe im demokratischen und sozialen Rechtsstaat, 1973.

Der Begriff der Gewalt im Systemzusammenhang der Straftatbestände, 1974.

参考文献

Dialogisches Recht. Evang. Theologie, 1965, S. 297 ff.

Institution und Recht, in: Recht und Institution, 1966, S. 11 ff.

Kirche und Staat. Zur Situation in der pluralistischen Gesellschaft. Kirche und Demokratie. Theologische Existenz heute, H. 133, 1966, S. 6 ff.

Recht und Frieden. ZEE 1968, S. 98 ff.

Kirche und Schule in der Demokratie. Zekr. 1968, S. 58 ff.
Arbeit und Erwachsenenbildung—Strafvollzug als Teil des Bildungssystems der Gesellschaft, in: Arthur Kaufmann

(Hrsg.), Die Strafvollzug. Eine kritische Bestandsaufnahme, 1971, S. 135 ff.

Rechtstheorie als Systemtheorie. Jahr-Maihofer, Rechtstheorie. Beiträge zur Grundlagendiskussion, 1971, S. 142 ff.
Eigentum als Institution—Aspekte zur Theorie der Institution. Schelsky (Hrsg.), Zur Theorie der Institution, 1.

Aufl. 1970, 2. Aufl. 1972, S. 119 ff., auch in: Arthur Kauf-

mann (Hrsg.), Rechtstheorie. Ansätze zu einem kritischen Rechtsverständnis, 1971, S. 119 ff.

Ein neues Konzept für den Strafvollzug, in: Ulfried Kleinert, Strafvollzug. Analysen und Alternativen, 1972, S. 135 ff.

Rechtswissenschaft als Projekts- und Strukturwissenschaft. Ein Beitrag zur Rechtstheorie. Jahrbuch für Rechtssoziologie und Rechtstheorie, Bd. 2, Rechtstheorie als Grundlagenwissenschaft. 1972, S. 277 ff.

Ausbildung und Therapie. Zur Konkretisierung eines Anspruchs auf Resozialisierung. Baumann hrsgg., Die Reform des Strafvollzuges, 1974, S. 55 ff.

Die Rechtsnatur der 《》 besonders schweren Fälle 《 und Regelbeispiel im Strafrecht. JZ 1975, S. 112 ff.

参考文献 (Peter Cramer)

「大分県国勢調査」キーヤン大分縣統計書出た。

〔展覧〕「1・11」110川・川・図「1111」現一「1011〕

参考文献

Die Rechtsprechung zur Rechtsbeschwerde nach dem Gesetz über Ordnungswidrigkeiten. VOR 1972, S. 102 ff., 133 ff.
Überlegungen zu einem Dritten Straßenverkehrssicherungs gesetz. VOR. Vol. 3, 1974, S. 21 ff.

Kritische Bemerkungen zu den Mehrfächter-Richtlinien. VOR 1974, S. 86 ff.

Zur Berechtigung absoluter Revisionsgründe. Zugleich ein Beitrag zur Reform des Strafprozessrechts. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 239 ff.

Gedanken zur Reform der fahrlässigen Körperverletzung im Verkehrsstrafrecht. DAR 1974, S. 317 ff.

アイゼンベルク (Ulrich Eisenberg)

チュービンゲン大学のグミュンガーの助手を勤め、現在は、インリン自由大学の助教授となつてゐるが、ボンム大学で講義をしてゐる。

著書

Strafe und freiheitsentziehende Massnahme, 1967.

Einführung in die Probleme der Kriminologie, 1972.

論文

Zum Behandlungskonzept der Sozialtherapeutischen Anstalten (2. StrRG § 65). NJW 1969, S. 1553 ff.

Die Sozialtherapeutische Anstalt im künftigen deutschen Strafrecht—Vorbilder in Europa—Empfehlungen. Göppinger—Witter (Hrsg.), Kriminologische Gegenwartsfragen, H. 9, 1970, S. 92 ff.

Zur Einrichtung sozialtherapeutischer Anstalten. ZfStr Vollz. 19, Jg., 1970, S. 92 ff.

Zum Opferbereich in der Kriminologie. GA 1971, S. 168 ff.

Zur Prognoseforschung in der Kriminologie. Der medizinische Sachverständige, Vol. 67, 1971.

Research priorities in criminology. Kaiser-Würtenberger ed., Criminological Research Trends in Western Germany, 1972, p. 90 ff.

Bemerkungen zu Möglichkeiten und Grenzen der Kriminologie. MKS 55. Jg., 1972, S. 97 ff.

Sozialtherapeutische Einrichtungen für verurteilte Straftäter in der BRD. Krim. J. 5. Jg., 1973, S. 48 ff.

ハントシュ (Siegfried W. Engel)

インペリアル大学で講師となつたあとに、ヤンズ、ハ○歳を卒した。医学と法律学を研究してゐる。

著書

Die Zeit des Gefangenen, 1963.

Zur Metamorphose des Rechtsbrechers. Grundlagen einer Behandlungslehre, 1973.

論文

Arbeit, Freizeit, Straffälligkeit. Der Wanderer, H. 2, 1961, S. 18 ff.

Zur Psychopathologie des Rechtsbrechers. Psychopathologie Heute. Festschr. f. K. Schneider, 1962, S. 328 ff.

Psychiatrisch-kriminologische Ergebnisse einer Kongressreise nach Japan. MKS 45. Jg. 1962, S. 184 ff.

Die Zeit des Strafgefängenen. G. Schaltenbrand, (Hrsg.) Zeit in nervenärztlicher Sicht, 1963, S. 59 ff.

Verlaufsformen delinquenten Verhaltens und ihre Beeinflussbarkeit, Krim. Geg. Fr. H. 7, 1966, S. 94 ff.

Der Bewährungsbau. ZfStrVollz. 16. Jg. 1967, S. 159 ff.

Das prognostische Quartett. MKS Jg. 51, 1968, S. 160 ff.

Über den Erlebniszusammenhang bei mehreren Taten und bei den mehreren Tätern. ZStrW Bd. 79, 1967, S. 331 ff.

Jugendliche Banden. ZBJugR. H. 12, 1967, S. 349 ff.

Entwurf einer dynamischen Kriminologie. MKS 54. Jg. 1971, S. 319 ff.

H.ハギタマン (Karl Engisch)

現在おのこにテニシテルタに注ぐ。同大学でベシナールを担当してゐる。[刑一七]一・二二' 二〇二二' 三・四' 一三三二' 追一〇一〇三]

著書

Der Arzt an den Grenzen des Lebens, 1973.

論文

Todesstrafe—ja oder nein? Pena de Morte, 1967, S. 273 ff.

西ドイツ刑法学の現状

Der „umgekehrte Irrtum“ und das „Umkehrprinzip“. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 185 ff.

Begriffseinteilung und Klassifikation in der Jurisprudenz. Festschr. f. K. Larenz, 1973, S. 125 ff.

Tun and Unterlassen. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 163 ff. Logische Überlegungen zur Verbrechendefinition. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 343 ff.

Karl Peters und der Ermessensbegriff. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 15 ff.

Über Negationen in Recht und Rechtswissenschaft. Grundlagen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 47 ff.

f. H. Henkel, 1974, S. 47 ff.

H.エーサー (Albin Eser)

一九七三年夏に急死したシュレーダーの講座を承継し、一九七四年冬学期に、テュービンゲン大学正教授となった。

[刑一七]一・二二' 二〇〇三' 四' 一三三二' 追一〇一〇三]

論文

Wissenschaftliche Forschungsfreiheit im Konflikt mit Strafverfolgungsinteressen. ZRP 4. Jg, 1971, S. 102 ff.

Der Schutz vor Selbstbeziehung im deutschen Strafprozess. Deutsche strafrechtliche Landesferate zum IX. Internationalen Kongress für Rechtsvergleichung Teheran

六三三 (五九七)

資料の整理をめぐっての考察。

論文

Zur Frage der Verkehrsunfallflucht (§ 142 StGB bei vor-
sätzlich herbeigeführten Verkehrsunfall. GA 1970, S. 1 ff.

Zur Problematik des § 50 Abs. 2 StGB im Rahmen der
Teilnahme am unechten Unterlassungsdelikte. ZStrW Bd.
82, 1970, S. 40 ff.

Rechterrigende „Einwilligung“ des verletzten Mitfahrers
bei Fahrlässigkeitstaten im Straßenverkehr? Ein Beitrag zur
dogmatischen Struktur der Einwilligung. ZStrW Bd. 83,
1971, S. 947 ff.

Totale und teilweise Entziehung der Fahrerlaubnis.
NJW 1971, S. 2154 ff.

Gedanken zur Rechtskraft und Beseitigung strafprozess-
ualer Beschlüsse. GA 1972, S. 165 ff.

Auswirkungen einer früheren strafgerichtlichen Ent-
ziehung der Fahrerlaubnis und der dort festgesetzten
Sperrfrist auf die Bemessung einer neuen Sperrfrist.
MDR 26. Jg. 1972, S. 280 ff.

ギールリント (Heinz Gierling)

フランクフルト自由大学の助教授である。

論文

Prozessbetrug im Versäumnis- und Mahnverfahren—
zugleich ein Beitrag zur Auslegung des Irrtumsbegriffs in
§ 263 StGB. GA 1973, S. 1 ff.

ゴッピンガー (Hans Göppinger)

【東京大学法学部教授】
『法律学』1971年12月号、1972年1月号、1973年1月号

論文

Göppinger-Witter (Hrsg.), Forensische Psychiatrie, 2
Bde, 1972.

Kriminologie. 2. Aufl., 1973.

論文

Göppinger-Matiar-Vahar-Vetter-Huber, Das Gutachten.
Göppinger-Witter, Forensische Psychiatrie, Bd. 2, 1972. S.
1485 ff.

Das Verfahren, ebenda, S. 1531 ff.

Möglichkeiten und Grenzen kriminologischer Ausbildung
der Juristen. Einheit und Vielfalt des Strafrechts.
Festschr. f. Karl Peters, 1974. S. 519 ff.

Criminology and Victimology. Drapkin-Viano, Victimology : A New Focus. Vol. 1, 1974, p. 9 ff.

グッセル (Karl Heinz Gossel)

一九三三年一月二十六日、ニーダーラインのラインハウゼンに生

れた。ミュンヘン大学のマウラッハの助手を勤め、一九六三年に書かれた論文「Wertungsprobleme des Begriffs der finalen Handlung unter besonderer Berücksichtigung der Struktur des menschlichen Verhaltens, 1966.」により学位を取得した。

教授資格は、一九七二年初頭に、ミュンヘン大学法学部で提出した論文「Über die Bedeutung des Irrtums im Strafrecht. I. Bd., 1974.」により獲得した。その後、同大学で講義をこぼしたが、一九七四年夏季期にヘルマン大学の招聘をうけ、同大学教授に就任した。

著書(共著)

Maurach-Gössel, Fälle und Lösungen nach hochstrichterlichen Entscheidungen. Strafrecht. 2. Aufl., 1973.

論文

Probleme der Verweisung nach § 328 Abs. 3. StPO. GA 1968, S. 356 ff.

Verkehrsrechtliche Anordnungen in strafrechtlicher Sicht.

Der Verkehrsdienst 1968, S. 97 ff.

Strafbare Zuwiderhandlungen gegen Verkehrszeichen.

Der Verkehrsdienst 1969, S. 9 ff., 51 ff.

Zur Strafbarkeit des Versuchs nach dem 2. Strafrechtsreformgesetz. GA 1971, S. 225 ff.

Strafvollzug. WEX. Bd. 3. 1973, S. 68 ff. u. 131 ff.

Vom Scheckbetrug zum Scheckkartenbetrug. MDR 1973,

S. 177 ff.

Über die Vollendung des Diebstahls. ZStrW Bd. 85, 1973, S. 591 ff.

Strafrechtsgewinnung als dialektischer Prozess. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 41 ff.

Über den fehlgeschlagenen Versuch. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 3 ff.

ケリマンフント(Gerald Grünwald)

〔刑イザ 一〇一四 三〇四 一三九 第三一〇七〕
著書

Empfiehlt es sich, besondere strafprozessuale Vorschriften für Großverfahren einzuführen? Gutachten C zum 50. Deutschen Juristentag, 1974.

論文

Zum Rücktritt des Tatbeteiligten im künftigen Recht. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 701 ff.

Die materielle Rechtskraft im Strafverfahren der Bundesrepublik Deutschland. Deutsche strafrechtliche Landesreferate zum IX. Internationalen Kongreß für Rechtsvergleichung Teheran 1974. Beiheft zu ZStrW 1974, S. 94 ff.

ケンブリッジ (Martin Gschwind)

「刑一七」三・四「一一九」追一〇七

論文

Anthropologische (bewußte und unbewußte) Voraussetzungen des Rechtserlaubnisses und Rechtsverhaltens. Jf. f. Rechtssoziologie und Rechtslehre, Bd. 3. Zur Effektivität des Rechts, 1972, S. 12 ff.

Die sozialtherapeutische Anstalt, Zwischenbilanz und Ausblick. Krim. Geg. Fr. H. 11, 1974, S. 150 f.

ハフケ (Bernhard Haffke)

フランクフルト大学のロッシン教授のまじい助手をつとめ、一九七四年に教授資格を取得した。私講師として、ハイデルベルク大学でインガキメの代講をつとめてこむところ。

現在まじいのところ、学位論文と教授資格論文をつとめて、情報をえつてこむ。

共著

Roxin-Schünemann-Haffke, Strafrechtliche Klausurenlehre mit Fallreperitorium, 1971.

論文

Mitgewahrhaftig, Gewährsamgehilfsenschaft und Unterschlagung. GA 1972, S. 225 ff.

Gewaltbegriff und Verwerflichkeitsklausel. ZStW Bd.

84, 1972, S. 37 ff.

Schweigepflicht, Verfahrensrevision und Beweisverbot. GA 1973, S. 65 ff.

Differenzierung beim Strafzweck nach ödipalen und postödipalen Delikten? MKS 1974, S. 280 ff.

Zum Rechtsschutz bei bevorstehender richterlicher Durchsicht beschlagnahmefreier Papiere. NJW 1974, S. 1983 ff.

Hat das Bundeszentralregistergesetz eine Konzeption?

Öffentliche Strafmoral und Gesetzesplanung. GA 1975, S. 65 ff.

ハル (Karl Alfred Hall)

すでに、定年を迎え、第一線を退つづるのびなめるおんな。

「刑一七」一・二「一九四」追一〇八

論文

Strafrecht der Angst. Eine Zeichnung zur Entmythologisierung des Strafrechts. Mensch und Recht. Festschr. f. E. Wolf, 1972, S. 80 ff.

Der Prozess als Richterlage. Persönlichkeit in der Demokratie. Festschr. f. E. Schwinge, 1973, S. 227 ff.

Die Aporie des Eides. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 59 ff.

ハナク (Ernst-Walter Hanack)

〔刑一七〕一・一七 一九三三・四 二一九 雑誌一〇八〕
論文

Zur verfassungsmässigen Bestimmtheit und strafrechtlichen Auslegung des Begriffs "unzüchtige Schrift" (§ 184

Abs. 1. Nr. 1 StGB, Art. 103 Abs. 2 GG). JZ 1970, S. 41 ff.

Delikte gegen die Person im Alternativ-Entwurf. ZRP 3. Jg, 1970, S. 132 ff.

Strafprozessrecht. Badura u a hrsgg., Recht, 1970, S. 201 ff.

Das Konzept der sozialtherapeutischen Anstalt im neuen deutschen Strafrecht. Erhardt (Hrsg.), Perspektiven der heutigen Psychiatrie, 1972, S. 229 ff.

Zur Reform des Rechts der Wiederaufnahme des Verfahrens im Strafrecht. JZ 1973, S. 393 ff.

Juristische Voraussetzungen der Sozialtherapie im Strafvollzug. Individuum und Gesellschaft. Familie, Schule, Politik, Strafvollzug, 1973, S. 11 ff.

Der dreistufige Aufbau der Strafgerichtsbarkeit im Entwurf eines ersten Justizreformgesetzes. Persönlichkeit in der Demokratie. Festschr. f. E. Schwinge, 1973, S. 183 ff.
Das Legalitätsprinzip und die Strafrechtsreform. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 339 ff.

Die Reform des Sexualstrafrechts und der Familien-

delikte. NJW 1974, S. 1 ff.

Die Rechtsprechung des Bundesgerichtshofs zum Strafverfahrensrecht. JZ 1974, S. 19 f, 54 ff.

Die Lebenslange Freiheitsstrafe. Krim. Geg. Fr. H. 11, 1974, S. 72 ff.

Strafverfahrensrecht. HW. d. Krim. Bd. 3, 1975, S. 225 ff.

ハルトヴィグ (Werner Hardwig)

〔刑一七〕一・一七 一九三三 雑誌一〇九〕

Rechtsform, freier Wille, Schuld. MKS 56. Jg., 1973, S. 288 ff.

Sittlichkeit, sittliche Normen und Rechtsnormen. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 19 ff.

ハッセマー (Winfried Hassemer)

〔雑誌一〇六〕

概論

Theorie und Soziologie des Verbrechen. Ansätze zu einer praxisorientierten Rechtsgutstheorie, 1973.

Strafrechtsdogmatik und Kriminalpolitik, 1974.

論文

Eltscheid-Hassemer, Strafe ohne Vorwurf. Bemerkungen

zum Grund strafrechtlicher Haftung. Civitas. Jb. f. Sozialwissenschaften, Bd. 9, 1970, S. 27 ff.

Schuld als soziales und sozialwissenschaftliches Phänomen. Recht und Gesellschaft, Bd. 1, 1971, S. 17 ff.

Juristische Argumentation und juristische Dialektik. Jb. f. Rechtssoziologie und Rechtstheorie. Rechtstheorie als Grundlagenwissenschaft der Rechtswissenschaft, Bd. 2, 1972, S. 467 ff.

Dogmatische, kriminalpolitische und verfassungsrechtliche Bedenken gegen die Kostentragungspflicht des verurteilten Angeklagten. ZStW Bd. 85, 1973, S. 651 ff.

Kriminalitätstheorien. WEX 2. Kriminologie, 1973, S. 79 ff.
Hassemer-Schroth, Labeling approach. WEX 2, 1973, S. 91 ff.

クニパー (Joachim Hellmer)

〔刑イヤ 一・二一' 一八八' 三・四' 二二八' 追二一〇六〕

著書

Kriminalitätsatlas der Bundesrepublik Deutschland und West-Berlin—Ein Beitrag zur Kriminalgeographie, 1972.

論文

Kriminalität in Berlin. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 577 ff.

Regionale Unterschiede in der Jugendkriminalität. Recht der Jugend u. d. Bildungswesens. 1973, S. 263 ff.

Hat sich das Jugendstrafrecht bewährt? ZblJugR. 60. Jg., 1973, S. 42 ff.

Überblick über die Wahlfachmaterie Kriminologie. WEX 2, Kriminologie, 1973, S. 17 ff.

Begriff und Funktion der Kriminalität. WEX 2, Kriminologie, 1973, S. 69 ff.

クニケン (Heinrich Henkel)

〔刑イヤ 一・二一' 一〇六〕

著書

Ideologie und Recht, 1973.

論文

Die Selbstbestimmung des Menschen als rechtsphilosophisches Problem. Festschr. f. K. Larenz, 1973, S. 3 ff.

Bemerkungen zum Verhältnis von Recht und Politik, Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 31 ff.

Das Problem der Rechtsbeugung. Dimensionen des Rechts. Gedachtnisschr. f. R. Marcic, 1974, S. 63 ff.

ハンクベント (Hans v. Hentig)

一九七四年七月六日、八七歳の高齢で死去された。〔刑一七' 一・

117-116、117-110]

書籍

Beiträge zur Verbrechenskunde, 1973.

論文

Die Rückkehr zum Tatort. MKS 55. Jg. 1972, S. 254 ff.

＜2＞\ (Rüdiger Herren)

[117-110]

論文

Forensisch-psychologisches Glasperlenspiel. JZ 1972, S. 512 ff.

Erich Wulfen. Krim. 1972, S. 177 f.

Hans Gross. Krim. 1972, S. 321 ff.

Cesare Lombroso oder: Auf der Suche nach dem geborenen Verbrecher. Krim. 1972, S. 367 ff.

Das neue Wissenschaftliche Institut des Freiburger Jugendhilfswerkes e. V. an der Universität Freiburg im Breisgau. JZ 1973, S. 87 f.

Albert Hellwig. Kämpfer gegen den kriminellen Aberglauben. Krim. 1973, S. 111 f.

Sigmund Feud. Schöpfer der psychoanalytischen Kriminologie. Krim. 1973 S. 156 f.

Zur Problematik psychologischer Indizien im Strafprozess.

Persönlichkeit in der Demokratie. Festschr. f. E. Schwinge, 1973, S. 233 ff.

Die Bedeutung der Psychoanalyse für die Kriminologie. WEX 2, Kriminologie, 1973, S. 100 ff.

＜2＞\ (Joachim Herrmann)

[117-111]

論文

Der Supreme Court der Vereinigten Staaten erklärt die Todesstrafe für verfassungswidrig. JZ 1972, S. 615 ff.

Die Liberalisierung der Schwangerschaftsunterbrechung durch den Supreme Court der Vereinigten Staaten. JZ 1973, S. 490 ff.

Das Versagen des überlieferten Strafprozessrechts in Monsterverfahren. ZStW Bd. 85, 1973, S. 255 ff.

Vereinigten Staaten von Amerika. Jescheck—Meyer, Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens usw., 1974, S. 673 ff.
Der Drogenbrauch und seine Bekämpfung. ZStW Bd. 86, 1974, S. 423 ff.

＜2＞\ (Rolf Dietrich Herzberg)

一九三八年に生れた。一九七四年夏学期、ボンム大学正教授に就任した。学位は、ケルン大学のヤーラー教授に提出した論文

Mittelbare Täterschaft bei rechtmässig oder unverbotten handelnden Werkzeug, 1967, ㉞取説㉞だ。

懲罰責任 一六〇年・七一一年と罪状㉞だ Die Unterlassung im Strafrecht und das Garantienprinzip, 1972, ㉞罪と懲罰㉞だ。

論文

Eigenhändige Delikte. ZStrW Bd. 82, 1970, S. 896 ff.

Anstiftung und Beihilfe als Straftatbestände. GA 1971,

S. 1 ff.

Garantenpflichten aufgrund gerechtfertigten Verhaltens.

Jus 1971, S. 74 ff.

Die Kausalität beim unechten Unterlassungsdelikt. MDR

1971, S. 881 ff.

Bewußte Selbstschädigung beim Betrug. MDR 1972, S. 93 ff.

Zur Strafe im geltenden Recht. Recht und Gesellschaft

1972, S. 134 ff.

Der Versuch beim unechten Unterlassungsdelikt. MDR

1973, S. 89 ff.

Aberatio ictus und abweichender Tatverlauf. ZStrW Bd.

85, 1973, S. 867 ff.

A・ヒッセル (Reinhard v. Hippel)

一九三二年二月二日、東プロイセンのケーニヒヒンスブルクに生れた。一九七三年にマールブルク大学教授に就任した。〔追二二一

一〇〕

論文

„Achtzehn zahl!“ oder zahl? Regierungsentwurf zur Herabsetzung des Volljährigkeitsalters. ZRP 1973, S. 9 f.

Einstellung von Strafverfahren und Weisungsrecht. FAZ

v. 27. 6. 1974.

Pragmatische Aspekte zum Problem der Rollenverkehrung

beim Sachverständigenbeweis. Einheit und Vielfalt des

Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 285 ff.

ヨナハン (Hans Joachim Hirsch)

引退したハンタの後任として、ケルン大学教授に就任した。

〔無一七 一・一七 一八二二 三・四 一一六 東一 一一三〕

Vor § 51. Leipz. Komm. 9. Aufl., 1974.

論文

Einwilligung und Selbstbestimmung. Festschr. f. H.

Welzel, 1974, S. 775 ff.

ホーニヒツ (Richard Honig)

〔刑一七 一・一七 一八二二 追二 一一三〕

論文

Zur gesetzlichen Regelung des bedingten Vorsatzes. GA

1973, S. 257 ff.

Strafrechtliche Allgemeinbegriffe als Mittler kriminal-politischer Ziele. Festschr. f. K. Larenz, 1973, S. 245 ff.

ホルン (Eckhard Horn)

一九三八年一月一日、ボンハイムに生れた。ボン大学のメー
ン・カンプの助手を勤め、学位を授けられた。その論文は、Ver-
botstirrtum und Vorverfärbkeit. Eine systematische Grund-
lagenanalyse der Schuldtheorie, 1969, 449 ff.

現在では、メーハイムに大卒教授として活躍している。警察官
検察官論文は、Konkrete Gefährdungsdelikte, 1973, 449 ff.

兼轄 (共訳)

Blutalkoholgehalt und Fahruntüchtigkeit, 1970.

Dahs-Horn, Taschenbuch des Strafverteidigers, 1972.

論文

Actio libera in causa—eine notwendige, eine zulässige
Rechtsfigur. GA 1969, S. 289 ff.

Horn-Samson, Steuernehrllichkeit und Steuerhinterzie-
hung durch Unterlassen. NJW 1970, S. 593 ff.

Zum Irrtum beim Ehegattendiebstahl. MDR 1971, S. 8 ff.

Horn-Samson, Nochmals: Zur Steuerverkürzung durch
Unterlassen. NJW 1971, S. 1686 f.

Tatschuld-Interlokut und Strafzumessung. ZStw Bd. 85,
1973, S. 7 ff.

Alter Wein in neuen Schläuchen? Zur neuesten Fassung
des § 40 Abs. 2 StGB (2. StrRG). JZ 1974, S. 287 f.

Das Geldstrafensystem des neuen Allgemeinen Teils des
StGB und die Ratenzahlungsbewilligung. NJW 1974, S. 625 ff.

Erlaubtes Risiko und Risikoerlaubnis. Zur Funktion des
Prüfstellensystems nach § 155 AE. Festschr. f. H. Welzel,
1974, S. 719 ff.

Ist die Versicherung gegen Vermögensschäden aus straf-
rechtlichen Sanktionen strafbar? Versicherungsrecht, 1974,
S. 1141 ff.

Todesbegriff, Todesbeweis und Angiographie in juristi-
scher Sicht. Der Internist, 1974, S. 557 ff.

Tunnen (Joachim Hruschka)

〔原〕 ヴェーニグ・シュテューベ
論文

Zum Tatvorsatz bei zweifaktigen Delikten, insbesondere
bei der Entführung des § 237 n. F. StGB. JZ 1973, S. 12 ff.

Rückkehr zum dolus subsequens? JZ 1973, S. 278 f.

Zum favor traditionis bei der Anwendung von Gese-
tzen, dargestellt am Beispiel des § 40 Abs. 2 GVG. Festschr.
f. K. Larenz, 1973, S. 181 ff.

Conscientia erronea und ignorantia bei Thomas von

Aquin. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 115 ff.

イーバーガー (Herbert Jäger)

〔民〕ヤ 一・一七 一〇一 三・四 一三三 四三二 一三三
論文

Strafrecht und nationalsozialistische Gewaltverbrechen

Kritische Justiz, 1. Jg., 1968.

Glosse über Lehrbuchkriminalität. MKS 56. Jg., 1973, S. 300 ff.

Strafrecht und psychoanalytische Theorie. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 125 ff.

Verbrechen unter totalitärer Herrschaft. HW. d. Krim. Bd. 3, 1975, S. 453 ff.

ヤントンス (Günther Jakobs)

一九三七年七月二六日、メンヒンゲンラーホフに生れた。
ボン大学のウォルツェル教授のあとを学位、教授資格を取得し、一
九七四年にキール大学教授に就任した。〔民〕一〇一 一三三〕

論文

Verniedbares Verhalten und Strafrechtssystem. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 307 ff.

Nötigung durch Drohung als Freiheitsdelikt. Einheit und

西ドイツ刑法学の現状

Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 69 ff.

Das Fahrlässigkeitsdelikt. Deutsche Strafrechtliche Landesferate zum IX. Internationalen Kongreß für Rechtsvergleichung Teheran 1974. Beiheft zu ZStW 1974, S. 7 ff.
ヤンツェル 罪例集註 巻註九〇 一〇 四七五 九〇

ヤンツェル (Hans-Heinrich Jescheck)

〔民〕ヤ 一・一七 一〇一 三・四 一三三 四三二 一三三
著書 (共著)

Jescheck-Krümpelmann, Die Untersuchungshaft im deutschen und ausländischen und internationalen Recht, 1971.

Jescheck-Löffler, Quellen und Schrifttum des Strafrechts. Bd. 1, 1972.

Lehrbuch des Strafrechts. Allgemeiner Teil, 2. Aufl., 1972.

Jescheck-Löffler, Quellen und Schrifttum des Strafrechts. Bd. 2, 1. Lief., 1973.

Jescheck-Meyer, Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens im deutschen und ausländischen Recht, 1974.

Jescheck ua., Probleme der Strafprozessreform. Berliner Gastvorträge, 1975.

論文

中三 (六〇中)

Der Strafprozess—Aktuelles und Zeitloses. JZ 1970, S. 201 ff.
Strafen und Massregeln des Musterstrafgesetzbuchs für Lateinamerika im Vergleich mit dem deutschen Recht. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 717 ff.

Eduark Kern—Leben und Werk. GA 1973, S. 232 ff.

Die Kriminalpolitik der deutschen Strafrechtsreform-gesetze im Vergleich mit der österreichischen Regierungsvorlage 1971. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 27 ff.

Neue Tendenzen des deutschen Strafverfahrenrechts im Vergleich mit dem österreichischen Recht. Liebscher-Müller (Hrsg.), Hundertjahre österreichische Strafprozessordnung 1873—1973, 1973, S. 39 ff.

Wesen und rechtliche Bedeutung der Beendigung der Straftat. Festschr. f. H. Weizel, 1974, S. 683 ff.

Rechtsvergleichung als Grundlagen der Strafprozessreform. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 761 ff. [auch in : Jescheck u.a., Probleme der Strafprozessreform, 1975, S. 7 ff.]
Strafrechtsreform in Deutschland. Allgemeiner Teil. SchwZSt Bd. 91, 1975, S. 1 ff.

フンヤ (Hans Heike Jung)

一九四二年四月二三日に、ザール州のノインキルヒェンに生れた。ザール大学のキールワイン教授のよき子として提出した論文 Der Ein-

fluß des englischen Rechts im südafrikanischen Strafrecht, 1974 年の博士号を取得した。一九七三年に、同大学助教としてなつた。

譯者

Müller-Dietz-Heike Jung, Vorschläge zum Entwurf eines Strafvollzugsgesetzes, 1973, 2. Aufl., 1974.

Roxin-Stree-Zipf-Jung, Einführung in das neue Strafrecht, 1974.

Fälle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975.

Straffreiheit für den Kronzeugen? 1975.

譯者

Zum neuen saarländischen Unterbringungsrecht. Saarländisches Ärzteblatt 1970, S. 265 ff.

Die neue Rechtsprechung des Bundsgerichtshofs zur Beweislast im ärztlichen Haftpflichtrecht. Saarländisches Ärzteblatt 1970, S. 469 f.

Zur Abgrenzung der strafrechtlichen Verantwortlichkeit zwischen Anästhesist und Operateur. Saarländisches Ärzteblatt 1971, S. 295 f.

Der Entwurf eines Strafvollzugsgesetzes. JuS 1972, S. 482 ff.

Der Entwurf eines Einführungsgesetzes zum StGB

neuen StGB (Alternativ-Entwurf). ÖJZ 1973, S. 568 ff.

クニヒトケネウエ (Theodor Kleinkecht)

〔判〕一〇一 一〇〕

解説

Strafprozessordnung mit GVG und Nebengesetzen. 31.

Aufl. 1974.

論文

Die künftige Massregel der Führungsaufsicht. BewHi 19. Jg., 1972, S. 123 ff.

„Informelles Schuldinterlokut“ im Strafprozess nach geltendem Recht. Zur modernen Gestaltung der Hauptverhandlung. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 651 ff.

クルーク (Ulrich Klug)

〔判〕ヤ 一・一〇 一ヤ一 判一〇一 一〇〕

論文

Rechtsstaatswidrige Vorbeugehaft. ZRP 2. Jg. 1969, S. 1 f.

コールマン (Gunter Kohlmann)

〔判〕ヤ 三・四 一〇四 判一〇一 一〇〕

著書

Wirksame strafrechtliche Bekämpfung des Kreditwuch-

西ドイツ刑法学の現状

ers. Zur notwendigen Reform des § 302 a StGB. 1974.

論文

Waffengleichheit im Strafprozess? Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 311 ff.

クニツヤ (Friedrich-Wilhelm Krause)

〔判〕ヤ 一・一〇 一六九 判一〇一 一〇〕

論文

Jugendstrafrecht und Prognose; Jugendstrafrecht als Schrittmacher der Strafrechtsreform. WEX 1, 1973, S. 44 ff.

Zum Problem der „Heranwachsenden“: Entwicklung, Voraussetzungen, österreichische Schule, Überprüfung von Massnahmen des Strafvollzugs. WEX, 1, 1973, S. 54 ff.

Grenzen richterlicher Beweiswürdigung im Strafrecht. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 323 ff.

クニツヤ (Detlev Krauß)

〔判〕ヤ 三・四 一〇三 判一〇一 一〇〕

著書

Die strafrechtliche Problematik kriminologischer Ziele

ヤ 六 (六 一三)

und Methoden. Eine Untersuchung am Beispiel der psychologischen und psychiatrischen Sachverständigen im Strafprozess, 1971.

羅文

Richter und Sachverständiger im Strafverfahren. ZStRW Bd. 85, 1973, S. 320 ff.

Der Schutz der Intimsphäre im Strafprozess. Festschr. f. Gallas, 1973, S. 365 ff.

ホルトク (Albert Krebs)

[展レヤ' 一・一]' 一六九' 三・四' 一三三]' 聖一' 一三三]' 羅文

Zur Entwicklung der Erwachsenenbildung in deutschen Strafanstalten. ZStRW Bd. 84, 1972, S. 559 ff.

Nikolaus Heinrich Julius》Vorlesungen über die Gefängnis-Kunde……《 gehalten 1872 zu Berlin. Eine Studie. MKS 56. Jg., 1973, S. 307 ff.

Es begann mit Religionsunterricht. Zur Entwicklung des Berufsbildes des Lehrers im Strafvollzug. ZStRVollz. 22. Jg., 1973, S. 1 ff.

Zur Durchführung der Massregel Sicherungsverwahrung nach den Bestimmungen des Entwurfs eines Strafvollzugsgesetzes 1973, Krim. Geg. Fr. H. 11, 1974, S. 121 ff.

Sicherungsverwahrung. HW. d. Krim., Bd. 3, 1975, S. 168 ff.

クレイ (Volker Krey)

一九四〇年担任教授。マントウ大学のキルンター・マン教授の助手を担任し、現在、マンロン田大学の助教として活躍中である。

羅文

Zum innerdeutschen Strafanwendungsrecht de lege lata und de lege ferenda. Zugleich ein Beitrag zur Frage der Strafbarkeit des Schußwaffengebrauchs an der Zonen- und Sektorengrenze, 1969.

Strafrecht. Besonderer Teil, Bd. 1 u. 2, 1972.

羅文

Zum Begriff des Wohlstands der Bundesrepublik Deutschland《 im § 99 Abs. 1 und 2 StGB. Gleichzeitig ein Beitrag zur Problematik des 》 illegalen Staatsgeheimnis《. ZStRW Bd. 79, 1967, S. 103 ff.

Krey und Schneider, Eigentliche Vorsatz-Fahrlässigkeits-Kombination nach geltendem und künftigen Recht. NJW 1970, S. 640 ff.

Verfassungskonforme Gesetzeskorrektur im Rahmen der notwendigen Verteidigung (§ 140 Abs. 1 Nr. 5 StPO)? NJW

1970, S. 1908 f.

Vermögensdelikte? Recht u. Gesellschaft, 1972, S. 327 ff.

ユスティニアン (Justus Krümpelmann)

フランクフルト大学のヨハン・マックス教授のゆゑに学位を取得した。
論文は Die Bagatelldelikte. Untersuchungen zum Verbrechen als Steigerungsbegriff, 1966, 249ff。その後、教授資格を
獲得し、現在、フランクフルト大学教授である。請求論文は、Affekt
und Schuldfähigkeit. (未公刊) である。

著書 (共著)

Jeschek-Krümpelmann, Die Untersuchungshaft im deutschen und ausländischen und internationalen Recht, 1971.

論文

Stufen der Schuld beim Verbotstrittum. Zugleich eine Stellungnahme zur Behandlung des Irrtums über Rechtfertigungsgründe im Entwurf 1962 und im Alternativ-Entwurf. GA 1968, S. 129 ff.

Motivation und Handlung im Affekt. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 327 ff.

キローネ (Hans-Heiner Kühne)

[1931-1971]

共著

西ドイツ刑法学の現状

Kühne-Miyazawa, Das japanische Jugendgesetz, 1975.

論文

Opportunität und quasi-richterliche Tätigkeit des japanischen Staatsanwalts. ZStW Bd. 85, 1973, S. 1079 ff.

Motivationsverläufe bei Rauschmittelgeschädigten. Ein Bericht über den Versuch einer empirischen Studie. Müller-Dietz (Hrsgg.), Kriminaltherapie heute. Forschungsberichte zur Behandlung von Delinquenten und Drogengeschädigten, 1974, S. 50 ff.

Kriminalitätsentwicklung in Japan. Krim. Geg. Fr. H. 11, 1974, S. 164 ff.

キローパー (Wilfried Küper)

一九三九年五月一日に、フランクフルトのハーベルに生れた。
フランクフルト大学教授に在任當時のピーターヌのもとで指導を受けた。Die Rechtsidee der Strafprozessordnung und ihre geschichtlichen Grundlagen, 1967 (紹介・鹿山英雄・判例タイムズ 二二(五)頁以下)により学位を取得した。その後、実務についていたが、この程、フランクフルト大学教授となった。教授資格請求論文は Studien zum entschuldigenden Notstand. (未公刊) である。

論文

Zum Verhältnis der beiden Begehungsformen des § 132

StGB. JR 1967, S. 451 ff.

Zur irrigen Annahme von Strafmilderungsgründen. GA 1968, S. 321 ff.

Strafrechtslehrtagung 1967 in Münster (Bericht). Jus 1968, S. 49 ff.

Cesare Beccaria und die kriminalpolitische Aufklärung des 18. Jahrhunderts. Jus 1968, S. 547 ff.

Die Grundlagen der Kompensation und die Voraussetzungen der Straffreierklärung nach § 199 StGB. JZ 1968, S. 651 ff.

Unzulässige Revision und formelle Rechtskraft des Strafurteils. GA 1969, S. 364 ff.

Kontumazialverfahren, Anordnung des persönlichen Erscheinens und Abwesenheitsverhandlung. NJW 1969, S. 493 f.

Zur Problematik der nachträglichen Gesamtstrafenbildung (§ 79 a. F., 76 n. F. StGB), Bemerkungen zu BGHSt 23, 98.

MDR 1970, S. 885 ff.

Zum strafprozessualen »Versäumnisurteil« in sog. Bagatellsachen (§ 232 StPO). GA 1971, S. 289 ff.

Zur Entbindung von der Erscheinungspflicht (§ 233 StPO) in der Berufungsinstanzen. JR 1971, S. 325 ff.

Rechtfertigender Notstand, Pflichtenkonkollision und übersetzliche Entschuldigung. Jus 1971, S. 474 ff.

Das Kompromat (Glosse). JZ 1971, S. 270.

Der Eintritt der Rechtskraft bei verspäteter Revisions- oder Rechtsbeschwerdebegründung. MDR 1971, S. 806 f.

„Pflichtgemäße Prüfung“ bei Zuziehung von Durchsuchungszeugen. NJW 1971, S. 1681 ff.

Berufungsverwerfung nach § 329 Abs. 1 StPO wegen Verhandlungsfähigkeit des Angeklagten? - BGHSt 23, 331.

Jus 1972, S. 127 ff.

Rudolf His. Neue Deutsche Bibliographie. Bd. 9, 1972, S. 248 f.

Der »agent provocateur« im Strafrecht. GA 1974, S. 321 ff.

Befreiungsantrag nach § 233 Abs. 1 StPO und strafprozessuales „Versäumnisurteil“ NJW 1974, S. 1927 ff.

Zum Begriff des „eigenmächtigen“ Ausbleibens in § 231 Abs. 2 StPO. NJW 1974, S. 2218 ff.

Legaltätsprinzip. HW. zur Deutschen Rechtsgeschichte, Bd. 2, 1975.

ルツクナ (Karl Lackner)
[展レハハ罪類抄の図表]

譯者
Lackner-Maassen, Strafgesetzbuch mit Erläuterungen, 8. Aufl., 1974, 9. Aufl., 1974.

論文

Gedanken zur Reform des Tatbestandes der Unfallflucht.

DAR 1972, S. 283 ff.

§ 13 StGB—eine Fehlleistung des Gesetzgebers. Festschr.

f. Gallas, 1973, S. 117 ff.

フナギ (Ernst Joachim Lampe)

〔原一七〇・四二〇〇 頁一〇一―一〇五〕

論文

Verfassungsbeschwerde gegen Strafurteile. JZ 1969, S. 287

ff.

Der Straftäter als „Person der Zeitgeschichte.“ NJW 1973, S. 217 ff.

Der Ausschluß des Verteidigers im Entwurf des Zweiten Gesetzes zur Reform des Strafverfahrensrechts. JZ 1974, S. 696 ff.

Rechtsgut, kultureller Wert und individuelles Bedürfnis. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 151 ff.

Die strafrechtliche Behandlung der sog. Computer-Kriminalität, GA 1975, S. 1 ff.

ラング・ユナリクセハ (Dietrich Lang-Hinrichsen)

〔刑一七三・四一九九 追一〇一―一〇五〕

西ドイツ刑法学の現状

一九七五年三月二日、三月三日の誕生日の直前に死去された。

論文

Umstrittene Probleme bei der strafgerichtlichen Untersuchung der Berufsausübung (Berufsverbot gegenüber Presseangehörigen ; Berufsverbot bei Nichtabführung von Krankenkassenbeiträgen für Arbeitnehmer ; Verhältnis des Berufsverbots zum Approbationssentzug. Festschr. f. E.

Heinitz, 1972, S. 477 ff.

Motivationsanalyse, Sozialisation, Verbrechenprophylaxe.

Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. E.

Peters, 1974, S. 547 ff.

フナギ (Richard Lange)

フナギ (Richard Lange)

ドイツの刑法学者の最古参りなつた。最近第一線を退いた。

〔原三〇四・一七九 頁一〇一―一〇六〕

書籍

Lange-Meissner-Pleyer hrsgg., Probleme des DDR-Rechts, 1973.

論文

Die Todesstrafe im deutschen Strafrecht. Pena de Morte, 1967, S. 161 ff.

Das Rätsel Kriminalität. ZRP 1971, S. 55 f.

Ist das Fernsehen kriminogen? Festschr. f. E. Heintz, 1972, S. 593 ff.

Die Strafzwecke in den beiden Teilen Deutschlands. Lange u. hrsgg., Probleme des DDR-Rechts, 1973, S. 131 ff.

Zur Problematik der Eidesverweigerung. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 427 ff.

Eduard Kohlrusch zum 100. Geburtstag. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 1 ff.

Der Ladendiebstahl-Ein Ort wissenschaftlicher Verwirrung. Festschr. f. H. Jahreis z. 80. Geburtstag, 1974.

レンガー (Wirrich Langer)

一九三九年五月三日に「オストプロイセンのメンシキタイン」に生れた。ボンブルク大学のシキリャットホルザーの助手を勤め、学位を取得した。その論文は「禁錮の書 Das Sonderverbrechen.

Eine dogmatische Untersuchung zum allgemeinen Teil des Strafrechts. 1972. 246頁。

教授資格請求論文の一部として公刊されたのが「Die falsche Verdächtigung. Ein Beitrag zur Strafrechtsreform, 1973.」である。ボンブルク大学私講師を経て、一九七四年冬学期にブローンルク大学教授となった。

レフエレンツ (Heinz Lefrenz)

ボンフレンツも、西ドイツの犯罪学会の第一人者となり、最近では「全刑法雑誌の編者の一人となった。」

〔「刑一七」三・四「一九五」「追一〇一」二七〕
論文

Die Beurteilung der Glaubigkeit. Göppinger-Witter, Handbuch der forensischen Psychiatrie, Bd. 2, 1972, S. 1314 ff.

Die Kriminalprognose, ebenda, S. 1347 ff.

Wilhelm Gallas' „Gedanken zum Verbrechen“ aus kriminologischer Sicht. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 65 ff.

レンクナー (Theodor Lenckner)

一九七三年冬学期に「引退したピータータースの後任としてチヤービンゲン大学教授となり、その年に急逝したシキリャターのあとを受け、」シキリャターの注釈書の改訂者となった。〔「刑一七」三・四「一九三」「追一〇一」二八〕

論文

Strafe, Schuld und Schuldfähigkeit. Göppinger-Witter, Handbuch der forensischen Psychiatrie, Bd. 1, 1972, S. 3 ff.

Lenckner-Schumann, Psychiatrische Probleme des Privat-rechts, ebenda, S. 287 ff.

Probleme beim Rücktritt des Beteiligten. Festschr. f. W.

Gallas, 1973, S. 281 ff.

Mitbeschuldigter und Zeuge. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 333 ff.

ムローターザン (Klaus Lüderssen)

〔刑一七一〇〕

論文

Die strafrechtsgestaltende Kraft des Beweisrechts. ZStrW Bd. 85, 1973, S. 288 ff.

Verbrechensprophylaxe durch Verbrechensprovokation?

Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 349 ff.

Alltagskriminalität und „Grenzmoral.“ Krim. J. 6. Jg., 1974, S. 201 ff.

リットムガー (Hans Lüttger)

〔刑一七三・四一八九〕

論文

Geburtshilfe und Menschenwerdung in strafrechtlicher Sicht. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 359 ff.

マイホーフナー (Werner Maihofer)

現在は、シミュレット内閣の内務大臣の要職についている。学者として

「ドイツ刑法学の現状」

譯者

Rechtssoziologie. (実証法)

論文

Rechtssoziologie, in: Recht, hrsgg. v. Badura ua, 1971, S. 152 ff.

Rechtstheorie als Basisdisziplin der Jurisprudenz, in:

Rechtstheorie als Grundlagenwissenschaft der Rechtswissenschaft. Jahrb. f. Rechtssoziologie und Rechtstheorie, Bd. 3, 1972, S. 51 ff.

Anthropologie der Koexistenz. Mensch und Recht. Festschr. f. E. Wolf, 1972, S. 162 ff.

Von der Philosophie zur Kritik des Rechts. Dimensionen des Rechts. Gedächtnisschr. f. R. Marcic, 1974, S. 187 ff.

Gesamte Strafrechtswissenschaft. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 75 ff.

マイワルド (Manfred Maiwald)

〔刑一七三・四一八九〕

論文

Bestimmtheitsgebot, tatbestandliche Typisierung und Technik der Regelbeispiele. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S.

137 ff.

Der Begriff der Leichtfertigkeit als Merkmal erfolgsqualifizierten Delikte. GA 1974, S. 306 ff.

Abschied vom strafrechtlichen Handlungsbegriff? ZStrW Bd. 86, 1974, S. 626 ff.

ヘルムホルト (Helmut Marguardt)

「*マ・ウーバー・ドルナ・カウフマンの弟子である。学位論文は『Dogmatische und kriminologische Aspekte des Vikariirens von Strafe und Massregel, 1972.』である。教授資格請求論文は未公開である。現在『ボン大学正教授である。』*

トルクス (Michael Marx)

一九四〇年三月六日、トリューに生れた。キール大学、フランクフルト自由大学に学ぶ。一九六七年に、アルトゥール・カウフマンの助手となり、ザール大学の法哲学・社会哲学研究所に勤務した。その後、カウフマンとともにフランクフルトに移り、一九七一年以後、法学研究所の助手となった。学位は、『Zur Definition des Begriffs „Rechtsgut.“ Prolegomena einer materialen Verbrechenlehre, 1972.』により取得した。間もなく、教授資格を獲得するであろう。

論文

Die „Würde des Gerichts.“ Undogmatische Betrachtungen zu § 178 GVG. Recht und Politik 1969, S. 99, ff.

Zur Bedeutung des ernsthaften Verlangens und der Einwilligung im Rahmen der Tötungsdelikte. Abschiedschr. f. Arthur Kaufmann, 1969, S. 55 ff.

Zur strafrechtlichen Verantwortlichkeit des Spruchrichters gemäß § 336 StGB. Erwiderung auf Kurt Mohrbutter. JZ 1970, S. 248 ff.

Zur Reform der Sittlichkeitsdelikte. Recht und Politik 1971, S. 25 ff.

Zum Begriff „Öffentlichkeit“ in § 183 StGB. Anlässlich eines Urteils des OLG Celle vom 24. 4. 1971 (GA 1971, S. 251 f.). JZ 1972, S. 112 ff.

500 Jahre Universität München. Festakt der juristischen Fakultät. JZ 1973, S. 36 f.

Resozialisierung; Zielkonflikte: Entwurf eines Strafvollzugsgesetzes. WEX 3. Strafvollzug, 1973, S. 81 ff.

レインハート (Reinhart Maurach)

〔刑一七〕三・四 一八八、通二二七二〕
論文

Juristische Argumente gegen die Todesstrafe. Todesstrafe? Theologische und juristische Argumente, 1960, S. 24 ff.

Auch in der Bundesrepublik Deutschland—nie wieder Todesstrafe! Pena de Morte, 1967, S. 245 ff.

Probleme des erfolgsqualifizierten Delikts bei Menschenraub, Geiselnahme und Luftpiraterie. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 403 ff.

Maurach-Behrendt, Überblick über die Wahlfachmaterie Jugendstrafrecht. WEX 1, 1973, S. 17 ff.

トヘヤー (Hellmuth Mayer)

〔罪一ヤ^レ 三・四^レ 一八六^レ 東三六^レ 三三〕
論文

Die sogenannte sexuelle Revolution und das Strafrecht.

Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 119 ff.

Zur Naturrecht des Luthertums. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 65 ff.

メルダハ (Armand Mergen)

〔罪一ヤ^レ 三・四^レ 一四八^レ 東二七^レ 三三〕
著書

Das Spiel mit dem Zufall. Kriminologische Untersuchung über das Spiel an Automaten, 1974.

論文

Der Platz der Kriminalistik in der Kriminologie. Krim. 1973, S. 439 ff.

Ein Verbrechen gegen Alle: Umweltvergiftung. Krim.

1974, S. 104 ff.

ミーハ (Olaf Mische)

現在^レ ハーネマン大学正教授である。

〔罪一ヤ^レ 四〕

論文

Einbeziehung, Verlängerung, Zumessung und Aussetzung der Jugendstrafe wegen besonders schwerer Schuld; Zumessung der unbestimmten Jugendstrafe; inhaltliche Begrenzung der Weisungen durch die besondere Pflichten. WEX 1, 1973, S. 102 ff.

Verfassungsrechtliche Elternstellung und einfaches Gesetz. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 563 ff.

モース (Reinhard Moos)

一九三三年からである。長い間、フライブルクのマックスプランク外国・国際刑法研究所の助手をこつた。学位は、Der Verbrechensbegriff in Österreich im 18. und 19. Jahrhundert. Sinn- und Strukturwandel, 1968. 学位も取得した。現在、オーストリップのツラーン大学正教授である。

論文

Franz von Liszt als Österreicher. ZStrW Bd. 81, 1969,

S. 660 ff.

"*Die Strafvollzugsreform*" (Heinz Müller-Dietz)

[*Die Strafvollzugsreform* (Müller-Dietz)]

編輯

Strafzweck und Vollzugsziel. Ein Beitrag zum Verhältnis von Strafrecht und Strafvollzugsrecht, 1972.

Strafe und Staat, 1973.

Müller-Dietz u. Heike Jung (Hrsgg.), Vorschläge zum Entwurf eines Strafvollzugsgesetzes, 1973, 2. Aufl. 1974.

Kriminaltherapie heute, 1974.

Probleme des modernen Strafvollzuges. Möglichkeiten und Schranken eines behandlungsorientierten Vollzuges, 1974.

継次

Stand und Entwicklung der Strafvollzugsreform. ZRP 3. Jg., 1970, S. 181 ff.

Sozialarbeit im Strafvollzug und Bewährungshilfe. BewHi 19. Jg., 1972, S. 137 ff.

Strafvollzugsrecht und Strafvollzugsreform. MKS. 55 Jg., 1972, S. 19 ff.

Verfassung und Strafvollzugsgesetz. NJW 1972, S. 1161 ff.

Die berufliche Resozialisierung Gefangener. Archiv f.

Wissenschaft und Praxis der Sozialarbeit, 4, 1973, S. 16 ff.

Soziale Arbeit als zentrale Aufgabe der Strafrechtspflege. BewHi 20. Jg. 1973, S. 104 ff.

Über das Inkrafttreten von Vorschriften, die nicht in Kraft treten. JZ 1973, S. 564

Sozialarbeit im Strafvollzug und in der Bewährungshilfe.

MKS 56. Jg., 1973, S. 15 ff.

Jung-Müller-Dietz, 8. Kolloquium der Südwestdeutschen kriminologischen Institute. MKS 56. Jg., 1973, S. 128 ff.

Probleme der Sozialprognose. NJW 1973, S. 1065 ff.

Die Bedeutung der Arbeit im Rahmen des Behandlungsvollzugs. ZStR-Vollz. Jg., 22, 1973, S. 125 ff.

Die Kriminologie als empirische Wissenschaft. WEX

2, Kriminologie 1973, S. 46 ff.

Überblick über die Wahlfachmaterie Strafvollzug. WEX 3, Strafvollzug, 1973, S. 17 ff.

Die Entwicklung des deutschen Strafvollzugsrechts seit Inkrafttreten des RStGB von 1871. WEX 3, 1973, S. 37 ff.

Der sozialtherapeutische Strafvollzug und die Öffentlichkeit. Informationsstagung für Journalisten und Beamten der Justizverwaltung in Trier. ZfStR-Vollz. Jg., 22, 1973, S. 197 ff.

Berufsausbildung und Strafvollzug. Zur Rolle berufsbildender Massnahme im künftigen Behandlungsvollzug. Deu-

tsche Berufs- und Fachschule, 69. Bd., 1973, S. 243 ff.

Strafvollzug und Bewährungshilfe in der Bundesrepublik Deutschland. Strafvollzug und Pädagogik, 14. Jg., 1973, S. 83 ff.

Berufsbildung im Strafvollzug. Strafvollzug und Pädagogik, 14. Jg., 1973, S. 110 ff.

Zur Entwicklung des strafrechtlichen Gewaltbegriffs. Ein Beispiel für den Wandel von Rechtsauslegung und Rechtsanwendung. GA 1974, S. 33 ff.

Die Entwürfe zu einem Strafvollzugsgesetz und die Strafvollzugsreform. JZ 1974, S. 351 ff., 489 ff.

Thesen zur Reform des Jugendstrafvollzuges. RdJ 1974, S. 129 ff.

Organisation des Vollzuges und Struktur der Vollzugsanstalt. Krim. Geg. Fr. H. 11, 1974, S. 45 ff.

Massemedien und Strafvollzugsreform. MKS Jg., 57, 1974, S. 165 ff.

Der Alternativ-Entwurf eines Strafvollzugsgesetzes und die Strafrechtsreform. Vorgänge. Zeitschr. f. Gesellschaftspolitik, 12. Jg., 1974, H. 7, S. 15 ff.

Strafzumessung und Behandlungsziel. MDR 1974, S. 1 ff.
Karl Joseph Anton Mittermaier. Ein führender Kriminalpolitiker und Panologe des 19. Jahrhunderts. Krim. 1974, S.

157 ff.

Johann Hinrich Wichern. Ein Vorkämpfer der Gefängnisreform in Preußen. Krim. 1974, S. 408 ff.

Die Reform des Strafvollzugs. Recht und Gesellschaft 4. Jg., 1974, S. 175 ff.

Jugendstrafvollzug im Blick der Öffentlichkeit. ZfStrVollz 23. Jg., 1974, S. 231 ff.

Zur Problematik des Arbeitentgelts und Sozialversicherung für Strafgefangene. ZRP 7. Jg., 1974, S. 249 ff.

Gewissensfreiheit und Strafrecht. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 91 ff.

ナナト (Wolfgang Naucke)

〔采 | ヲ' | 田' | < | ' | 罽 = 罽 | ナナト〕

兼任職

Über Generalklauseln und Rechtsanwendung im Strafrecht, 1973.

編者

Rechtspolitische Vorentscheidung bei der Diskussion einer Verlängerung von Verjährungsfristen für NS-Verbrechen. ZRP 2. Jg., 1969, S. 8 ff.

Änderungsvorschlag zu § 153 Abs. 3 StPO. Zugleich eine Bemerkung zum Verhältnis Strafgesetzgeber—Strafrichter,

ZRP 2, Jg., 1969, S. 172 ff.

Über das Verhältnis von Strafrechtswissenschaft und Strafrechtspraxis. ZStrW Bd. 85, 1973, S. 399 ff.

Der Aufbau des § 330 c StGB. Zum Verhältnis zwischen Allgemeinen und Besonderem Teil des Strafrechts. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 761 ff.

Der Kausalzusammenhang zwischen Täuschung und Irrtum beim Betrug: Zum Verhältnis zwischen Kriminalpolitik und Strafrechtsdogmatik. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 109 ff.

ペテ (Peter Noll)

〔原〕 ヲノ 三・四 一七ノ 罪ニシヤキ〕

編輯

Welche strafrechtliche Mittel empfehlen sich für die wirksamere Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität? Verh. d. 49. Deutschen Juristentags. Teil M, 1972.

Gesetzgebungslehre, 1973.

總文

Von der Rechtsprechungswissenschaft zur Gesetzgebungswissenschaft. Rechtslehre als Grundlagenwissenschaft der Rechtswissenschaft. Jahrb. f. Rechtssoziologie und Rechtstheorie, Bd. 2, 1972, S. 524 ff.

Gründe für die soziale Unwirksamkeit von Gesetzen. Zur Effektivität des Rechts. Jb. f. Rechtssoziologie und Rechtstheorie, Bd. 3, 1972, S. 259 ff.

Die Arbeitserziehung. SchwZStr. Bd. 89, 1973, S. 149 ff. Zur Frage der Vereinheitlichung des Strafprozessrechts in der Schweiz. Festschr. f. Max Guldener, 1973, S. 231 ff.

Technische Methoden zur Überwachung verdächtiger Personen im Strafverfahren. SchwZStr Bd. 91, 1975, S. 45 ff.

デー (Dieterich Oehler)

〔原〕 ヲノ 三・四 一八ノ 罪ニシヤキ〕

編輯

Internationales Strafrecht, 1973.

總文

Die positive Wirkungen ausländischer Strafurteile im Inland im Rahmen der Vollstreckung. Festschr. f. Heinitz, 1972, S. 777 ff.

The Significance of the Principle of Territoriality in modern Criminal Law. Law and State, Vol. 8, 1973, p. 37 ff.

Die Wirkung des reformierten Naturrechts in England auf die Rechtsstellung des Einzelnen. Persönlichkeit in der

Demokratie. Festschr. f. E. Schwinge, 1973, S. 7 ff.

Die Auswirkung des reformatorisch-calvinischen Naturrechts im Recht Amerikas. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 101 ff.

ホトロー (Harro Otto)

〔刑一七〕三・四一 一七四 第三〇七六〕

雜書

Pflichtenkonkollision und Rechtswidrigkeitsurteil, 2. Aufl., 1974.

Übungen im Strafrecht, 1974.

論文

Persönlichkeitsschutz durch strafrechtlichen Schutz der Ehre. Persönlichkeit in der Demokratie. Festschr. f. E. Schwinge, 1973, S. 71 ff.

„In dubio pro reo“ und Wahlfeststellung. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 373 ff.

ペーターズ (Karl Peters)

〔刑一七〕三・四一 一七四 第三〇七六〕

雜書

Fehlerquellen im Strafprozeß. Eine Untersuchung der

Wiederaufnahmeverfahren in der Bundesrepublik Deutschland, Bd. 2, 1972.

Bd. 3, Wiederaufnahmerecht, 1974.

論文

Die Problematik der Todesstrafe in der Bundesrepublik Deutschland. Pena de Morte, 1967, S. 149 ff.

Die Strafvollzugsreform. Haberle-Weissberger-Peters-Pfeffer-Naumann, Reformen in Strafrecht und Strafvollzug, 1971, S. 85 ff.

Die ethischen Voraussetzungen des Resozialisierungs- und Erziehungsvollzuges. Festschr. f. E. Heintz, 1972, S. 501 ff.

Strafprozess im Wandel. Recht als Instrument van behoud en verandering. Festschr. f. van der Ven, 1972, S. 315 ff.

Gescheiterte Wiederaufnahmeverfahren. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 441 ff.

Sozialadäquanz und Legalitätsprinzip. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 415 ff.

Strafprozeß und Tatsachenforschung. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 253 ff.

Zur Reform des Wiederaufnahmeverfahrens. Jescheck ua,

Probleme der Strafprozeßreform, 1975, S. 107 ff.

邦訳論文

野勢弘之訳・再審の研究と誤判原因、法律時報、四六巻三号、八六頁以下。

宮沢浩一訳・若年犯罪者の処遇——西ドイツにおける少年刑法改正について、自由と正義、二五巻二号、五六頁以下。

宮沢浩一訳・自由心証の限界、シュリット、五五四号、四九頁以下。

野勢弘之訳・再審法の改革、刑法雑誌、二〇巻一号、一頁以下。

フィリップス (Lothar Philipps)

〔追記七七八〕 なな、法研四〇巻三号、八九頁参照〕

著書

Der Handlungsspielraum. Untersuchungen über das Verhältnis von Norm und Handlung im Strafrecht, 1974.

(教授資格請求論文)

論文

Das dialogische Tableau als Werkzeug des Rechts. Rechtstheorie als Grundlagewissenschaft der Rechtswissenschaft. Jb. f. Rechtssoziologie und Rechtstheorie, Bd. 2, 1972, S. 223 ff.

Dolus eventualis als Problem der Entscheidung unter Risiken. ZStrW Bd. 85, 1973, S. 27 ff.

Täter und Teilnehmer—Versuch und Irrtum. Ein Modell für die rechtswissenschaftliche Analyse. Rechtstheorie. ZSchr. f. Logik, Methodlehre, Kybernetik und Soziologie des Rechts. 5. Bd., Heft 2, 1974, S. 129 ff.

クヴェンセル (Stephan Quensel)

一九三六年五月一日に、ハイデルベルクに生れた。はじめ、ヴァルテンブルガーのもとで犯罪学・行刑学研究所に勤務していたが、後、ブラウネットの助手となり、ギーセン大学私講師(一九七三年)を経て、一九七四年ブレーメン大学教授となる。

著書

Sozialpsychologische Aspekte der Kriminologie. Handlung, Situation und Persönlichkeit, 1964. (学位論文)

教授資格請求論文を未公開である。

論文

Quelques aspects criminologiques de l'alcoolisme. Revue de droit pénal et de criminologie, 1964, p. 1 ff.

Bemerkungen zur 12. Arbeitstagung der kriminalbiologischen Gesellschaft in Heidelberg. MKS 47. Jg., 1964, S. 88 ff.

Steiner-Quensel, Neue Wege kriminologischer Zusammenarbeit. MKS 48. Jg., 1965, S. 41 ff.

Methodologische Aspekte des Alkoholismus aus kriminologischer Sicht: Zur These "Alkohol als wesentliche Verbre-

- chensursache." Alkohol und Alkoholismus. Hrsg. v. der Dt. Hauptstelle gegen die Suchtgefahren, 1967, S. 178 ff.
- Quensel-Steiner-Schumacher, Group Counseling im Erwa-
chsenenvollzug. MKS 49. Jg., 1966, S. 160 ff.
- Die Kehrseite der Beccaria-Medaille. Folgerungen aus
der Diskussion zwischen H. J. Schneider und G. Kaiser.
MKS 50. Jg., 1967, S. 406 ff.
- Kurzfristige Freiheitsstrafen? — Möglichkeiten einer
rationalen Kriminalpolitik. Kriminologische Wegzeichen.
Festschr. f. H. v. Hentig, 1967, S. 287 ff.
- Kann die Jugendstrafanstalt resozialisieren? Hindernisse
und Voraussetzungen einer Therapie. Wege zum Menschen,
1968, S. 174 ff.
- Der Alternativ-Entwurf in Zahlen. Baumann, hrsgg.,
Programm f. ein neues Strafgesetzbuch, 1968, S. 50 ff.
〔築設・母体理論・概論〕
〔築設・母体理論・概論のなかのトモトモイ 監理四や半 五十九頁迄
へ〕
- Der Strafvollzugsbeamte in der Gruppenarbeit. Aktuelle
Kriminologie. Festschr. f. A. Mergen, 1969, S. 247 ff.
- Stephan & Edelgart Quensel, Läßt sich die Delinquenz-
belastung messen? Krim. J. 1969, Nr. 1, S. 4 ff.
- Kurze Freiheitsstrafen: Das Dilemma der Strafrechtsre-
form. Baumann hrsgg., Misslingt die Strafrechtsreform?
1969, S. 108 ff.
- Group Counseling und Therapeutisches Milieu: Überle-
gungen zu einem Experiment. Die Jugendkriminalrechts-
pflege im Lichte der kriminologischen Forschung. 1969,
S. 97 ff.
- Stephan & Edelgart Quensel, Delinquenzbelastungsskalen
für männliche Jugendliche. Köhner Zeitschr. f. Soziologie
und Sozialpsychologie, 1970, S. 75 ff.
- Die gesetzliche Regelung der sozialtherapeutischen
Anstalt in der Bundesrepublik. Krim. J. 1970. Nr. 1, S. 4
ff.
- Verbrechen in Utopia. Veränderung der Gesellschaft.
1970, S. 108 ff.
- Sozialarbeit, Strafvollzug und Gesellschaft. Neues Beginn,
1970, S. 129 ff.
- Strategie des kontrollierten Wandels: Zusammenarbeit
zwischen Strafvollzug und Wissenschaft. Krim. J. 1970, S.
66 ff.
- Wie wird man kriminell? Kritische Justiz, Jg., 3, 1970.
Heft 4.
- Stephan & Edelgart Quensel, Behandlungsforschungs-
projekt Rockenburg. Krim. J. 3. Jg., 1971, S. 26 ff.
- Delinquenzbelastung und soziale Schicht bei nichtbestre-

ben männlichen Jugendlichen. (—Untersuchung mit einem Delinquenzbelastungsbogen—). MKS 54. Jg., 1971, S. 236 ff.

Stephan & Edelgart Quensel, Probleme der Behandlung im geschlossenen Vollzug. Arthur Kaufmann hrsgg., Die Strafvollzugsreform, 1971, S. 159 ff.

Strafen oder Behandeln? Radius, 1971, S. 36 ff.

Soziale Fehlpassung und Stigmatisierung. — Ein Test zum Messen der delinquenten Entwicklung. Zur Effektivität des Rechts. Jb. f. Rechtssoziologie und Rechtstheorie, Bd. 3, 1972, S. 447 ff.

Sozialarbeit und Jugendkriminalität; Wie fördert der Sozialarbeiter die delinquente Entwicklung. Schmidtobereich hrsgg., Kriminalität und Sozialarbeit, 1972, S. 47 ff.

Zusammenarbeit zwischen Soziologie und Rechtswissenschaft bei einem Alternativ-Entwurf zu einem Strafvollzugsgesetz für die Bundesrepublik Deutschland. SchwZ-Str. Bd. 89, 1973, S. 12 ff.

Kritische Kriminologie. Zur Auseinandersetzung mit einem marxistischen Ansatz. Kritische Kriminologie. Beiträge zu einer Standortbestimmung, 1974, S. 132 ff.

Randgruppen hinter Gittern: Gefängnisinsassen. Der Bürger im Staat. 23. Jg., 1973, S. 106 ff.

Der Alternativentwurf zum Strafvollzugsgesetz: Ein kleiner Schritt vorwärts. Die Reform des Strafvollzugs, hrsgg. v. Baumann, 1974, S. 21 ff.

Einige subjektive Aspekte konservativer Gesetzgebung: Das Beispiel des Strafvollzugsgesetzes. Mitteilungen des Instituts für Gesellschaftspolitik in Wien, 1975.

Gruppendynamische Behandlungsmethoden im Jugendstrafvollzug. Ergebnisse eines Forschungsprojekts. Praxis der Kinderpsychologie und Kinderpsychiatrie, 1975.

ロシニキ (Klaus Rolinski)

「ペニン」大卒の助手や「シム」大卒の「トーン」に属して犯罪「ジョン」だが、最近「ノーゲ」メン「ト」大学に移った「ヨウ」や「シム」。「シム」法「科」四「七」条「三」項「參」見]

羅文

Die sozial-therapeutische Anstalt—eine Herausforderung. Psych. Rundschau, Bd. 23, 1972, S. 195 ff.

Änderungen des Strafgesetzes und moderner Strafvollzug. Med. Klinik, Bd. 67, 1972, S. 788 ff.

Außenkontakte des Insassen. Baumann hrsgg., Die Reform des Strafvollzugs, 1974, S. 77 ff.

ロクシム (Claus Roxin)

〔采一ヤ' 川・四' 一ヤ川' 集三二二〇〕
譯註 (譯註)

Roxin-Schünemann-Hafke, Strafrechtliche Klausurenlehre mit Fallrepetitorium, 1973.

ESJ Strafrecht. Allgemeiner Teil, 1973.

Strafverfahrensrecht. 12. Aufl. 1974.

Roxin-Stree-Zipf-Jung, Einführung in das neue Strafrecht, 1974.

譯註

Strafrecht und Strafrechtsreform. Recht, hrsg. v.

Badura-Deutsch-Roxin, 1971, S. 218 ff.

Über den Rücktritt vom unbeendeten Versuch. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 251 ff.

Unterlassung, Vorsatz und Fahrlässigkeit, Versuch und Teilnahme im neuen Strafgesetzbuch. Jus 1973, S. 197 ff., 329 ff. (auch: Roxin ua., hrsgg., Einführung in das neue Strafrecht, 1974, S. 1 ff.)

Kriminalpolitische Überlegungen zum Schuldprinzip. MKS 56. Jg., 1973, S. 316 ff.

Dichtung und Kriminalität, — Am Beispiel Karl Mays. Persönlichkeit in der Demokratie. Festschr. f. E. Schwinge, 1973, S. 47 ff.

Zum Schutzzweck der Norm bei fahrlässigen Delikten. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 241 ff.

Über die mutmaßliche Einwilligung. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 447 ff.

Aktuelle Probleme der Öffentlichkeit im Strafverfahren. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 393 ff.

„Schuld“ und „Verantwortlichkeit“ als strafrechtliche Systemkategorien. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 171 ff.

Die Anstaltsbeiräte im Alternativ-Entwurf. Baumann hrsgg., Die Reform des Strafvollzuges, 1974, S. 115 ff.

Zur Reform der Hauptverhandlung. Jeschek ua., Probleme der Strafprozeßreform, 1975, S. 52 ff.

ヨシキトパー (Hans-Joachim Rudolphi)

〔采一ヤ' 川・四' 一ヤ川' 集三二二〇〕
譯註

Die Bedeutung eines Gewissensentscheides für das Strafrecht. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 605 ff.

Affekt und Schuld. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 199 ff.

ホフマン (Erich Samson)

〔判例 2 (11)〕

論文

§ 50 II n. F. StGB und die Verjährung. ZRP. 2. Jg., 1969, S. 27 ff.

Horn-Samson, Steuernehrlichkeit und Steuerhinterziehung durch Unterlassen. NJW 1970, S. 593 ff.

Horn-Samson, Nochmals : Zur Steuerverkürzung durch Unterlassen. NJW 1971, S. 1686 f.

Begehung und Unterlassung. Festschr. f. H. Weizel, 1974, S. 579 ff.

Die Kausalität der Beihilfe. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 121 ff.

Legislatorische Erwägungen zur Rechtfertigung der Explantation von Leichtenstein. NJW 1974, S. 2030 ff.

ホフマン (Werner Sarstedt)

〔判例 3 (1) 1 (1) 1 判例 2 (11)〕

論文

Was erwartet die Praxis von einem neuen Strafrecht? Justiz im Wandel der Gesellschaft. Kirche und Gesellschaft.

Beiträge zur Sozialethik, hrsg. v. Heyde-Lefringhausen-Wiedemann, 1968, S. 4 ff.

Fragen der Rechtsbeugung. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 427 ff.

Tendenzen in der Entwicklung des heutigen Strafrechts aus der Sicht der Strafrechtsprechung. Horstkotte-Kaiser-Sarstedt, Tendenzen in der Entwicklung des heutigen Strafrechts, 1973, S. 51 ff.

ホフマン (Walter Sax)

〔判例 3 (1) 1 (1) 1 判例 2 (11)〕

論文

Probleme des Urkundenstrafrechts. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 137 ff.

Zur rechtlichen Problematik der Sterbehilfe durch vorzeitigen Abbruch einer Intensivbehandlung. Überlegungen zum „Unterlassen durch Tun“, zum „Schutzzweck der Norm“ und zur „scheinbaren Rechtsgutsverletzung“. JZ 1975, S. 137 ff.

ハフマン (Friedrich Schafstein)

〔判例 3 (1) 1 (1) 1 判例 2 (11)〕

論文

Jugendstrafrecht. 4. Aufl., 1972.

論文

Die Bemessung der Jugendstrafe. ZbJUGR. 54. Jg., 1967, S. 129 ff.

Die Todesstrafe in Deutschland in Vergangenheit und Gegenwart. Pena de Morte, 1967, S. 213 ff.

Jugendstrafrecht. Recht, hrsg. v. Badura-Deutsch-Roxin, 1971, S. 80 ff.

Praxis und Reform des Jugendkriminalrechts im Spiegel der Verurteilungstatistik. ZbJUGR. 58. Jg., 1971, S. 225 ff.

Schädliche Neigungen und Schwere der Schuld als Voraussetzung der Jugendstrafe. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 461 ff.

Jugendkriminalrecht und Jugendhilferecht. MKS 56. Jg., 1973, S. 326 ff.

Spielraumtheorie, Schuldbegriff und Strafzumessung nach den Strafrechtsreformgesetzen. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 99 ff.

Das Strafrecht in Wilhelm v. Humboldts Schriften über die Grenzen der Staatswirksamkeit. Festschr. f. E. R. Huber, 1973, S. 117 ff.

Handlungsunwert, Erfolgswert und Rechtfertigung bei den Fahrlässigkeitsdelikten. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 557 ff.

Überlegungen zu einem künftigen Jungtäterrecht. Einheit

und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 583 ff.

Kriminologie und Strafrechtskommentare. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 215 ff.

ウニオン・エム・エル (Werner Schmid)

〔原一平 三・四 一六七 頁二三〇〕

論文

Der Revisionsrichter als Tatrichter. ZStW Bd. 85, 1973, S. 360 ff.

Der revisionsgerichtliche Augenscheinsbeweis. ZStW Bd. 85, 1973, S. 893 ff.

エム・エル・エル (Eberhard Schmidhauser)

〔原一平 三・四 一六七 頁二三〇〕

論文

Beitrag zum Kolloquium, das die Juristische Fakultät der Universität Coimbra veranstaltet, um das Jahrhundert der Abschaffung der Todesstrafe in Portugal zu feiern. Pena de Morte, 1967, S. 21 ff.

Freikaufverfahren mit Strafcharakter im Strafprozess? JZ 1973, S. 529 ff.

Über den Einfluß kriminologischer Tattypen auf die Erfassung von Strafgesetzen. MKS 56. Jg, 1973, S. 342 ff.
Gesinnungsethik und Gesinnungsstrafrecht. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 81 ff.

Selbstmord und Beteiligung am Selbstmord in strafrechtlicher Sicht. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 801 ff.

Über die Praxis der Gerichte, die richterliche Verantwortung in der Strafrechtsanwendung zu verschleiern. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 229 ff.

Hヤルハント・ハナウミル (Eberhard Schmidt)

現存刑法学者の「おぼび」文字通り最長者となつた。往年の「おぼび」の姿はなくなつたが、依然として、刑法史の論文を奇麗に「おぼび」する。〔「罪」三・四「一六四」第ⅢのⅣ〕
論文

Materielle Rechtskraft—Materielle Gerechtigkeit. JZ 1968, S. 681 ff.

Die unglückliche Bestimmung des § 464 a Abs. 2 StPO. NJW 1969, S. 916 f.

Repression und Prävention im Strafprozess. JR 1970, S. 204 ff.

§ 261 StPO in der neueren höchstrichterlichen Recht-

sprechung. JZ 1970, S. 337 ff.

Strafrecht und Strafprozessrecht im Berliner Stadtrecht aus dem Ende des 14. Jahrhunderts. ZStW Bd. 84, 1972, S. 287 ff.

Marggraf Otto IV mit dem Pfeil. Herrscher und Künstler. Festschr. f. E. Heintz, 1972, S. 111 ff.

Strafrechtliches Material in karolingischen Geschichtsquellen. ZStW Bd. 85, 1973, S. 1 ff.

Theodor Fontane und die Askanier. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 21 ff.

Zur Entwicklung des Inquisitionsprozess in Bayern. ZStW Bd. 85, 1973, S. 857 ff.

Vom ältesten Recht in Magdeburg. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 603 ff.

Strafrechtliche Vorbeugungsmittel im Preussischen Allgemeinen Landrecht von 1794. ZStW Bd. 86, 1974, S. 621 ff.

Das Markgrafentum in der Mark Brandenburg. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1974, S. 301 ff.

ルドルフ・ハナウミル (Rudolf Schmitt)

〔「罪」三・四「一六四」第ⅢのⅣ〕
論文

Was wird aus unseren Jurastudenten? JZ 1974, S. 234 ff.
Lücken im Vollzugsgesetz. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 611 ff.
Arbeit-Sozialversicherung-Wiedergutmachung. Baumann hrsgg., Die Reform des Strafvollzuges, 1974, S. 69 ff.

ハルトマン (Hans Joachim Schneider)
〔要旨(27)〕
要旨

Kriminologie. Standpunkte und Probleme, 1974.
Jugendkriminalität im Sozialprozess, 1974.
Viktimologie. Die Wissenschaft von Verrechtensopfer.
1975.

論文

Kriminologie im Vorfeld integrativer Wissenschaft. JZ 1969, S. 784 ff.
Wirtschaftskriminalität in kriminologischer und strafrechtlicher Sicht. JZ 1972, S. 461 ff.

Kriminalität, Kriminalromane und Kriminologie heute. Universitas Bd. 27, 1972, S. 981 ff.
Behandlung in Freiheit. — Neue Formen gesellschaftlicher Reaktion auf kriminelles Verhalten. — BewHi Jg., 20, 1973, S. 207 ff.

Die gegenwärtige Lage der deutschsprachigen Kriminologie. Kritischer Überblick über ihre Grundprobleme und Hauptrichtungen. JZ 1973, S. 569 ff.
Die Erben der Mafia—Organisiertes Verbrechen in den USA. MKS 56. Jg., 1973, S. 353 ff.

Verbrechen, organisiertes. HW. d. Krim. Bd. 3, 1975, S. 473 ff.

Viktimologie. HW. d. Krim. Bd. 3, 1975, S. 532 ff.
Wirtschaftskriminalität. HW. d. Krim. Bd. 3, 1975, S. 656 ff

ハント (Heinz Schoch)

一九四〇年卒業。マッシュボードのオーディオ技術を職。『Strafzumessungspraxis und Verkehrsdelinquenz. Kriminologische Aspekte der Strafzumessung am Beispiel einer empirischen Untersuchung zur Trunkenheit im Verkehr, 1973.』博士の学位を取得した。マローボン大学のメカデー・マンナー・リポートについて研究と学生指導に当りつたが、一九七四年夏季期にマッテングン大学教授に招聘された。

論文

Verkehrsdelinquenz und allgemeine Kriminalität. Ein empirischer Beitrag zum Problem der Fahreignung bei Vorbestrafen. NJW 1971, S. 1857 ff.
Möglichkeiten und Grenzen einer Typisierung der

Strafzumessung bei Verkehrsdelikten mit Hilfe empirischer Methoden. Krim. Geg. Fr. H. 10, 1972, S. 128 ff.

Verkehrseignung sozial auffälliger Personen. Turčina (Hrsg.), Psihopatska Ličnost, 1972, S. 303 ff.

Schule, Strafzumessung, Typologie, Verkehrsdelikte, in: Kaiser ua Hrsgg., Kleines Kriminologisches Wörterbuch, 1974, S. 294 ff., 334 ff., 362 ff., 375 ff.

Vollzugsziele und Recht des Strafvollzugs. Kaiser-Schöch-Eidt-Kerner, Strafvollzug. — Einführung in die Grundlagen, 1974, S. 44 ff.

Aussetzung des Strafrestes zur Bewährung. Jung Hrsgg., Fälle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 73 ff.

Der Begriff der Rechtspflicht. Archiv für Begriffsgeschichte. Bd. 12, 1968, S. 133 ff.

Verjährung NS-Mordaten? Evangelische Kommentare 1969, S. 22 ff.

Zur Problematik der Rechtsbeugung. GA 1972, S. 193 ff.

Rückwirkungsverbot bei einer Änderung der Rechtsprechung im Strafrecht? JZ 1973, S. 713 ff.

Hans Welzel 70 Jahre. NJW 1974, S. 735.

Akteneinsicht für Laienrichter? Zu den Grundsätzen von Mündlichkeit und Unmittelbarkeit im Strafprozess. Festschr. f. H. Welzel. 1974, S. 941 ff.

Die Rechtfertigung der Transplantatentnahme. Der Internist 1974, S. 551 ff.

Euthanasie. Beiträge zur Gerichtlichen Medizin, 1975.

Strafzumessung bei Verkehrsdelikten mit Hilfe empirischer Methoden. Krim. Geg. Fr. H. 10, 1972, S. 128 ff.

Besondere Umstände in der Tat und Persönlichkeit des Verurteilten. Festschr. f. F. Schaffstein, 1975.

シムロイバー (Hans-Ludwig Schreiber)

一九三三年五月一〇日、メンコハンタラーマンに生れた。

一九六二年に、第二次國家試験に合格の後、四年間、裁判官及びニダーザクセン州の司法省勤務を経験し、その間、一九六五年に学位を取得した。論文が、Der Begriff der Rechtspflicht. Quellenstudien zu seiner Geschichte, 1966 及び、Das Nachhinein

を取得した。論文が、Die Entwicklung des Prinzips nullum

crimen, nulla poena sine lege, 1975 (邦訳) 及び、一九六一年四月に、ボン大学の教授となったが、同年一〇月、ロミンの兼任として、マッテヤンマン大学教授となった。

論文

Zur Zulässigkeit der rückwirkenden Verlängerung von Verjährungsfristen früher begangener Delikte. ZStrW Bd. 80, 1968, S. 348 ff.

Der Begriff der Rechtspflicht. Archiv für Begriffsgeschichte. Bd. 12, 1968, S. 133 ff.

Verjährung NS-Mordaten? Evangelische Kommentare 1969, S. 22 ff.

Zur Problematik der Rechtsbeugung. GA 1972, S. 193 ff.

Rückwirkungsverbot bei einer Änderung der Rechtsprechung im Strafrecht? JZ 1973, S. 713 ff.

Hans Welzel 70 Jahre. NJW 1974, S. 735.

Akteneinsicht für Laienrichter? Zu den Grundsätzen von Mündlichkeit und Unmittelbarkeit im Strafprozess. Festschr.

f. H. Welzel. 1974, S. 941 ff.

Die Rechtfertigung der Transplantatentnahme. Der Internist 1974, S. 551 ff.

Euthanasie. Beiträge zur Gerichtlichen Medizin, 1975.

Besondere Umstände in der Tat und Persönlichkeit des Verurteilten. Festschr. f. F. Schaffstein, 1975.

その他' Historisches Wörterbuch der Philosophie, 4. Aufl. 'Gerechtigkeit, Rechtsgeltung, Rechtspflicht の頁目を執筆した。

ホルスト・シュローダー (Horst Schroeder)

一九七三年九月一二日夕刻、イタリアの地中海岸で不慮の死をとげた。六〇歳の働き盛りであり、注釈書の一七版の校正を終えたところであつた(宮沢・シュリスト五四六号八六頁以下)。

〔刑一七' 三・四' 一五九' 追Ⅱ九三〕

著書

Schönke-Schröder, StGB. 17. Aufl., 1974.

論文

Die „Erforderlichkeit“ von Sicherungsmaßregeln. Beurteilungszzeitpunkt und Beurteilungsmaßstab. JZ 1970, S. 92 ff.

Die Addition strafloser Handlungen zu einer Straftat. JZ 1972, S. 651 ff.

Diebstahl und Raub mit Waffen (§§ 244, 250 StGB). Anmerkungen zu dem Urteil des BGH vom 4. 5. 1972. NJW 72, 1243. NJW 1972, S. 1833 ff.

Die Ablehnung von Beweisanträgen auf Grund Wahrheitstellung und Unerheblichkeit. NJW 1972, S. 2105 ff.

Probleme strafrechtlicher Verjährung. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 329 ff.

Betrug durch Behauptung wahrer Tatsachen? Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 153 ff.

フリードリヒ・クリスチャン・シュローダー (Friedrich Christian Schroeder)

〔刑一七' 三・四' 一六〇' 追Ⅱ九二〕

著書(編著)

Die Strafgesetzgebung in Deutschland. Eine synoptische Darstellung der Strafgesetzbücher der Bundesrepublik Deutschland und der Deutschen Demokratischen Republik, 1972.

Polizei und Geiseln. Der Münchner Bankraub, 1972.

§ 59. StGB. Leipziger Kommentar, 1974.

Rauschgift. Bekämpfung des Drogenmissbrauchs, 1974. 論文

Die Straftaten gegen die sexuelle Selbstbestimmung nach dem Entwurf eines 4. StrRG. ZRP 4. Jg., 1971, S. 14 ff.

Schwangerschaftsabbruch wegen „allgemeiner Notlage“? ZRP 5. Jg., 1972, S. 105 f.

„Rechtsphilosophie“ in der Sowjetunion. JZ 1973, S. 417. Ernüchterung in der Strafrechtspflege der DDR. JZ 1973, S. 656 ff.

Revision der Staatsanwaltschaft bei Verwerfung der Berufung des nichterschienenen Angeklagten. NJW 1973, S. 308 f.

Entwicklung und Grundzüge des deutschen Jugendstrafrechts. WEX I, 1973, S. 35 ff.

Zur Strafbarkeit der Fluchthilfe. Unter besonderer Berücksichtigung der Notwehrprobleme. JZ 1974, S. 113 ff. Systematische Stellung und Rechtsgut der Sexualstraf-taten nach dem 4. StrRG. Festschr. f. H. Welzel 1974, S. 859 ff.

Legalitäts- und Opportunitätsprinzip heute. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 411 ff.

Die Herbeiführung einer Unterschrift durch Täuschung oder Zwang. GA 1974, S. 225 ff.

ホルトナー=ホルトリンホルム (Horst Schüler-Springorum)
〔刑一七三・四一五六(追二九四)〕
論文

Strafvollzugsrecht. Recht, hrsgg. v. Badura — Deutsch—Roxin. 1971, S. 245 ff.

Rudolf Sieverts 70 Jahre. JZ 1973, S. 703.

Der » natürliche « Vorsatz. Zu einer Beurteilung durch

Richter und Sachverständigen. MKS 56. Jg., 1973, S. 363 ff. Fünfzig Jahre Jugendkriminalität. ZblJUGR 60. Jg., 1973, S. 41 f.

Das Getrieb der Strafvollzugsreform. ZStrW Bd. 85, 1973, S. 916 ff.

Der Kommissionsentwurf eines Strafvollzugsgesetzes—Wandlungen und Alternativen. Krim. Gef. Fr. H. 11, 1974, S. 11 ff.

Prügel und Pranger. Grundfragen der gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel, 1973, S. 141 ff. Planung des Vollzuges. Baumann hrsgg. Die Reform des Strafvollzuges. 1974, S. 39 ff.

Schüler-Springorum u. H. Maisch, Procedural Victimology and its Contribution to Victimological Knowledge. Drapkin-Viano, Victimology: A New Focus, Vol. 3, 1975, p. 13 ff.

ホルトナー (Bernd Schünemann)

「ホルトナー大学のロマン教授のあつど助手をやつておらんぞ」
Grund und Grenzen der unechten Unterlassungsdelikte.
Zugleich ein Beitrag zur strafrechtlichen Methodenlehre,
1971 年の学位を取得して、弁護士を兼ねておらんぞ。この論文は、教
授資格請求論文が受理された、講師となりた。その論文はこうだ。
また情報やべつたぞ。

共報

Roxin-Schünemann-Haffke, Strafrechtliche Klausurenlehre mit Fallrepetitorium, 1973.

論文

Das beschleunigte Verfahren in Zwiespalt von Gerechtigkeit und Politik. NJW 1968, S. 975 f.

Methodenprobleme bei der Abgrenzung von Betrug und Diebstahl in mittelbarer Täterschaft. GA 1969, S. 46 ff.

Roxin-Schünemann, Das falsche Kommilitone (Der praktische Fall—Strafrecht). Jus 1969, S. 372 ff.

Die Stellung der Unterschlagungstatbestände im System der Vermögensdelikte. Jus 1969, S. 775 ff.

Die Belehrungspflichten der § 343 IV, 136 n. F. StPO und der BGH. MDR 1969, S. 101 ff.

Die Freiheitsdelikte im künftigen Strafrecht. MKS 1970, S. 250 ff.

Ordnungswidrigkeiten. Recht hrsgg. v. Badura—Deutsch—Roxin, 1971, S. 101 ff.

Das strafprozessuale Wiederaufnahmeverfahren propter nova und der Grundsatz „in dubio pro reo“. ZStW Bd. 84, 1972, S. 870 ff.

Zur Kritik der Ingerenz-Garantenstellung. GA 1974, S. 231 ff.

西ケーン刑罰法の研究

Die Geschäftsverteilung in Schwurgerichtssachen und das Prinzip des gesetzlichen Richters. NJW 1974, S. 295 ff.

ゲオルグ・シュワム

ゲオルグ・シュワム 著

論文

Der objektivierete Wille des Gesetzgebers. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 47 ff.

エリッヒ・シュウィング

ゲオルグ・シュワム 著

論文

Zur Verantwortung des Bibliothekdirektors. Die Behandlung von Schmähschriften. Festschr. für Rudolf Reinhardt, 1972, S. 475 ff.

Wandlungen des Ehrenschutzes. Festschr. f. Julius Scheveling, 1972, S. 277 ff.

Tumult im Gerichtssaal. MKS 56. Jg., 1973, S. 371 ff.

グンター・スペンデル

ゲオルグ・シュワム 著

論文

Zur strafrechtlichen Verantwortlichkeit des Richters. Die

1011

(大川三平)

Vorsatzform bei der Rechtsbeugung. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 445 ff.

Zur Dogmatik der unechten Unterlassungsdelikte. JZ 1973, S. 137 ff.

Wider das Irrationale unserer Zeit. Persönlichkeit in der Demokratie. Festschr. f. E. Schwinge, 1973, S. 21 ff.

Zum Tode von Wilhelm Class. NJW 1974, S. 685.

Richter und Rechtsbeugung. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 163 ff.

Nachruf für Ulrich Stock. NJW 1975, S. 630 f.

グンター・ストラテンwerth (Gunter Stratenwerth)

〔刑一七〇三・四一四四七 追二九九八〕

著書

Schweizerisches Strafrecht, Besonderer Teil, I. Straftaten gegen Individualinteressen, 1973.

論文

Strafrechtliche Massnahme an geistig Abnormen. Schw. ZStr. Bd. 89, 1973, S. 131 ff.

Bemerkungen zum Prinzip der Risikoerhöhung. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 227 ff.

Unbewußte Finalität? Festschr. f. Welzel, 1974, S. 289 ff. Alternative (Grundsätze des Vollzugs). Baumann hrsgg.

Die Reform des Strafvollzuges, 1974, S. 9 ff.

ワルター (Walter Stree)

〔刑一七〇三・四一四六六 追二九九八〕

論文

Bestimmung eines Tatenschloßenen zur Tatänderung. Festschr. f. E. Heinitz, 1972, S. 277 ff.

Rechtswidrigkeit und Schuld im neuen Strafgesetzbuch. Jus 1973, S. 461 ff. [auch, in: Roxin ua., Einführung in das neue Strafrecht, 1974, S. 110 ff.]

Horst Schröder † NJW 1973, S. 1968.

Beginn des Versuchs bei qualifizierten Straftaten. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 179 ff.

トートプハ (Klaus Tiedemann)

引退したヴァルテンネルガーの講座を承継し、併せてフライブルク大学犯罪学・行刑学研究所を主宰している。〔刑一七〇三・四一四五 追二九九八〕

著書

Welche strafrechtliche Mittel empfehlen sich für die wirksamere Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität? Verh. d. Deutschen Juristentags, 1972, Teil C.

Tiedemann-Cosson, Straftaten und Strafrecht im deutschen und französischen Bank- und Kreditwesen, 1973.

Subventionskriminalität in der Bundesrepublik. Erscheinungsformen, Ursachen, Folgerungen, 1974.

論文

Zur Reform der Vermögens- und Wirtschaftsstrafatbestände. ZRP 3. Jg., 1970, S. 256 ff.

Wirtschaftsgesetzgebung und Wirtschaftskriminalität.

NJW 1972, S. 657 ff.

Verwaltungsstrafrecht und Rechtsstaat. öJZ 1972, S. 285 ff.

Die Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität als Aufgabe der Gesetzgebung am Beispiel der Steuer- und Subventionsdelinquenz. GA 1974, S. 1 ff.

Zeitliche Grenzen des Strafrechts. Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 193 ff.

Die Fortentwicklung der Methoden und Mittel des Strafrechts unter besonderer Berücksichtigung der Entwicklung der Strafgesetzgebung. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 299 ff.

フョーグラー (Theo Vogler)

一九七四年冬学期に、キーンン大学教授に就任した。〔刑一〕
三・四「一四三」追二〇一〇〇〕

西アーン刑法学の現状

論文

Zur Frage der Ursächlichkeit der Beihilfe für die Haupttat. Festschr. f. E. Heintz, 1972, S. 295 ff.

Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens bei Verstößen gegen die Konvention zum Schutz der Menschenrechte und Grundfreiheiten (MRK). Jescheck-Meyer, Wiederaufnahme des Strafverfahrens usw., 1974, S. 713 ff.

フーナー (Heinz Wagner)

一九三七年一月二八日に、メンラウンシヨロイタに生れた。メンラウン大学のメンツェットホーザーの助手を勤め、同教授に提出した論文「Das Verbrechen bei Dostojewski, 1966」により、学位を得た。教授資格は、 Amtsverbrechen, 1975 (京大) により獲得した。一九七四年五月に、キーンン大学教授に就任した。

論文

Die selbständige Bedeutung des Schuldspruchs im Strafrecht, insbesondere beim Absehen von Strafe gemäss § 16 StGB. GA 1972, S. 33 ff.

Das Starfverfahren erster Instanz. Recht und Gesellschaft 2. Jg., 1972, S. 368 ff.

Die Rechtmäßigkeit der Amtsausübung (§ 113 Abs. 3 StGB) OLG Karlsruhe, NJW 1974, 2142. Jus 1975, S. 224 ff.

ハイター (Heribert Waider)

〔刑1ヤ 三・四 一四三〕 梁 二九 一〇一〕

論文

Fehlquellen im Strafverfahren dargestellt nach Spees
"Cautio Criminalis" von 1631/32. Einheit und Vielfalt des
Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 473 ff.

ワルダ (Heinz-Günter Warda)

〔刑1ヤ 三・四 一四一〕 梁 二九 一〇一〕

論文

Schuld und Strafe beim Handeln mit bedingtem Unrechts-
bewußtsein. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 499 ff.

ウヘルン (Jürgen Welp)

オトクシのオキド提出した論文 Vorangegangenes Tun als
Grundlage einer Handlungsäquivalenz der Unterlassung,
1968. 学位を取得し、私講師となり、直ちにフランクフルン
大学教授となった。教授資格請求論文は Die strafprozessuale Über-
wachung des Post- und Fernmeldeverkehrs, 1975. 学位。

論文

„Vereinfachter“ Geheimnisschutz im Strafverfahren. JZ
1972, S. 423 ff.

Der Einheitstäter im Ordnungswidrigkeitenrecht. VOR

1972, S. 299 ff.

Die Geheimnähäre des Verteidigers in ihren strafproze-
ssualen Funktionen. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 391 ff.

ワヘルンヘル (Hans Welzel)

〔刑1ヤ 三・四 一四〇〕 梁 二九 一〇三〕

論文

Grenzen der Rationalität in der Rechtswissenschaft.
Festschr. f. E. Heintz, 1972, S. 31 ff.

Gedanken zur Begriffsgeschichte der Rechtsphilosophie.
Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 1 ff.

Das Recht als Gemeinschaftsordnung. Grundfragen der
gesamten Strafrechtswissenschaft. Festschr. f. H. Henkel,
1974, S. 11 ff.

ウヘトクシ (Johannes Wessels)

〔刑1ヤ 三・四 一三九〕 梁 二九 一〇三〕

著書

Strafrecht. Allgemeiner Teil, 4. Aufl., 1974.

ヴァルン (Ernst Amadeus Wolf)

〔刑1ヤ 三・四 一三九〕 梁 二九 一〇三〕

論文

Die Grenzen des dolus eventualis und der willentlichen

Verletzung. Festschr. f. W. Gallas, 1973, S. 197 ff.

トモチトニヤカガ (Thomas Wurlenberger)

「大ヤ三時」の「大ヤ」の「大ヤ」の「大ヤ」の「大ヤ」

〔大ヤ〕の「大ヤ」の「大ヤ」の「大ヤ」の「大ヤ」

〔大ヤ〕

Cesare Beccaria. Krim. 1972, S. 225 f.

Über Rechtsanthropologie. Mensch und Recht. Festschr.

f. E. Wolf, 1972, S. 1 ff.

Edmund Mezger. Wegleiter moderner Kriminalpolitik auf

kriminologischer Grundlage. Krim. 1973, S. 24 ff.

Vom Weg des Juristen. Persönlichkeit in der Demokratie.

Festschr. f. E. Schwinge, 1973, S. 39 ff.

Die soziale Arbeit in der künftigen Sozialrechtspflege,

vor allem in einem Strafvollzugsgesetz. Anfragen an den

Regierungsentwurf eines Strafvollzugsgesetzes? Bew Hi 20.

Jg., 1973, S. 155 ff.

Geschichte der Kriminologie. WEX 2. Kriminologie, 1973,

S. 35 ff.

WEX 3. Strafvollzug, 1973, S. 50 ff., 59 ff.

Über Freiheit und Sicherheit. Festschr. f. H. Welzel,

1974, S. 23 ff.

Rechtsfriede und Strafrecht. Einheit und Vielfalt des

Strafrechts. Festschr. f. K. Peters, 1974, S. 209 ff.

ニヤニヤ (Heinz Zipf)

〔大ヤ〕の「大ヤ」の「大ヤ」の「大ヤ」の「大ヤ」

〔大ヤ〕

〔大ヤ〕

Strafprozessrecht, 1972.

Kriminalpolitik. Eine Einführung in die Grundlagen,

1973.

Roxin-Stree-Zipf-Jung. Einführung in das neue Strafrecht,

1974, S. 62 ff.

Maurach-Zipf, Deutsches Strafrecht. Allgemeiner Teil,

Nachtrag, 1974.

〔大ヤ〕

〔大ヤ〕

Registrierte und latente Kriminalität. WEX 2. Krimi-

nologie, 1973, S. 60 ff.

Die Rechtsfolgen der Tat im neuen Strafgesetzbuch. Jus.

1974, S. 137 ff., 273 ff. [auch in : Roxin ua, Einführung in

das neue Strafrecht, 1974, S. 61 ff.]

Kriminalpolitische Überlegungen zum Legalitätsprinzip.

Einheit und Vielfalt des Strafrechts. Festschrift f. K.

Peters, 1974, S. 487 ff.

Probleme der Neuregelung der Geldstrafe in Deutschland.

ZStW Bd. 86, 1974, S. 513 ff. (1974年・四・19稿)